

東北環境パートナーシップオフィス 運営第5期

平成31年度事業実施報告書

(令和元年度／2019)



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)

目次

I .EPO 東北 運営第 2 期～第 4 期総括

1. 運営期と主な出来事	P5
2.EPO 東北事業の変遷	P6
3. 情報発信の記録	P10
4. 総括	P14

II . 事業計画

1. 運営第 5 期 中期事業計画	P17
2. 平成 31 年度事業計画	P18
3. 平成 31 年度事業計画一覧	P22

III . 事業報告

1. 平成 31 年度 総括	P26
2. 出張・外出のべ日数	P27
3. 事業実施一覧	P28
4. 事業実施報告	P30
(1) EPO 東北業務	
1) 基本業務	P30
① Web サイト等を活用した情報発信、PR	
② 相談対応・対話の場づくり	
③ 全国事業に関わる業務	
④ 施設の維持・管理	
2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務事業	P33
3) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	P35
① パートナリーシップ団体学習会	P35
② 環境学習施設との会議の開催（ビジターセンター交流会）	P36
③ 地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施	P38
4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化	
① 第 6 回みちのく薪びと祭り in 青森おおわに	P39
② 福島ヒアリング	P42
5) 事業検討委員会の開催	P42

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター業務	
1) ESD 活動に関する相談・支援窓口	P43
2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等	P45
3) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等	P45
4) 全国センター開催業務への出席及び対応	P46
5) ESD 活動に関するネットワーク構築	
① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席	P46
②東北 ESD / SDGs フォーラムの開催	P47
③地域 ESD 拠点の登録及び支援	P50
④ ESD ネットワーク会議	P51
⑤ ESD 推進・地域研修会	P52
6) その他	P54
(3) 東北地方環境事務所との協働による事業実施	P54
(4) 企業等との協働事業	
1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携	P55
2) GreenGift 地球元気プログラム	P56

I .EPO 東北 運営第 2 期～第 4 期総括

I -1. 運営期と主な出来事

期	年度	運営団体	主な出来事
第1期	平成18年度 (2006)	NPO 法人 水環境ネット東北	7月22日開設
	平成19年度 (2007)		
	平成20年度 (2008)		
	平成21年度 (2009)		
第2期	平成22年度 (2010)	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ ネットワーク (MELON)	 COP10※1
	平成23年度 (2011)		 H23/3/11 東日本大震災
	平成24年度 (2012)		 3.11 ヒアリング
第3期	平成25年度 (2013)		 協働取組加速化事業※2
	平成26年度 (2014)		 ESD ユネスコ世界会議※3
	平成27年度 (2015)		 みちのく薪びと祭り開催/H26
第4期	平成28年度 (2016)		 東北地方 ESD活動支援センター Education for Sustainable Development 東北 ESD センター開設/H29
	平成29年度 (2017)		
	平成30年度 (2018)		
第5期	令和元年度 (2019)		 東北 ESD/SDGs フォーラム
	令和2年度 (2020)		
	令和3年度 (2021)		

※1「COP10」 生物多様性条約第10回締約国会議（名古屋／H22/10/11-29）

※2「協働取組加速化事業」 環境省 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業（H25～29年度まで5年間実施）

※3「ESD ユネスコ世界会議」 持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議（名古屋／H26/11/10-12）

※4「同時解決事業」 環境省 SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務（H30～R1年度）

I -2.EPO 東北事業の変遷

運営第 2 期

H22 (2010) 年度

H23 (2011) 年度

H24 (2012) 年度

EPO東北
独自事業

主催型

シンポジウム
フォーラム

交流会型事業へ

再生可能エネルギー交流会



再生可能エネルギー交流会①②



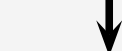
東日本大震災対応

H23 (2011) 年
3月11日(金) 14時46分
東日本大震災

- ・1週間閉館／スタッフ自宅待機
- ・3/22～出勤
 - 各家庭の状況確認
 - 事務局体制、勤務について協議
 - 東北地方環境事務所と対応協議



現場踏査・ヒアリング



- ・Web サイト特設ページ開設
- ・3.11からの学びの記録・発信



継続

冊子化①



環境省伴走支援事業、他

COP10
生物多様性交流フェア
ブース展示



復興支援活動のマッチング
グリーンサンタ®
被災小学校・幼稚園訪問



環境 NPO 等
ビジネスモデル策定事業

【宮城】NPO 法人東鳴子ゆめ会議
【宮城】NPO 法人日本の森
バイオマスネットワーク



運営第3期

H25（2013）年度

H26（2014）年度

H27（2015）年度

事業連携の模索

地域開催型へ

EPO東北
独自事業

分科会

テーマ「薪」
テーマ「BDF」

EPO 間連携

再生可能エネルギー交流会 in 広島

中間支援組織交流会 in 宮城



みちのく薪びと祭り

第1回 in 山形さんぜ

第2回 in 岩手とおの



再生可能エネルギー交流会 in 福岡

中間支援組織交流会 in 広島

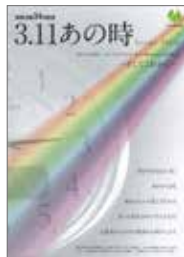


再生可能エネルギー交流会 in 四国

中間支援組織交流会 in 関東

現場踏査・ヒアリング

冊子化②



追加ヒアリング

冊子化③



事例集

「3.11 あの時
教訓事例集
- 中間支援組織
1年間の後方支援活動
の記録 -」



東日本大震災対応

EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄

ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知



【岩手】（株）紬

【宮城】（一社）チガノウラカゼコミュニティ

事例集

地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【宮城】（一社）持続可能で安心安全な社会を
めざす新エネルギー活用推進協議会



地域活性化を担う環境保全活動
の協働取組推進事業

【青森】（一社）白山山地財団



【岩手】マイムマイム奥州
【秋田】（一社）あきた地球環境会議



環境省伴走支援事業、他

I -2.EPO 東北事業の変遷

運営第 4 期

H28 (2016) 年度

H29 (2017) 年度

H30 (2018) 年度

EPO 東北
独自事業

協働による事業展開の模索

みちのく薪びと祭り

● 第 3 回 in 福島みなみあいづ

● 第 4 回 in 宮城なるこ

● 第 5 回 in 秋田梅内

EPO 間連携

● 中間支援組織交流会 in 四国



ビジターセンター交流会

第 1 回 in 仙台
第 2 回 in 網張ビジターセンター



東北 ESD センター

地方 ESD 活動支援センター設置に向けた体制整備等検討業務



東北地方 ESD 活動支援センター

- ・ 7/3 開設
- ・ 東北 ESD フォーラム 2018 (仙台)



東北 ESD フォーラム in 岩手



東日本大震災対応

EPO 間連携による 3.11 語り部派遣事業

● ESD 学びあいフォーラム in 沖縄、愛知

● ESD 学びあいフォーラム in 中部

● ESD 学びあいフォーラム in 愛知

事例集
「3.11 あの時
教訓事例集」



環境省伴走支援事業

地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

【秋田】(一社) あきた地球環境会議
【山形】三瀬地区自治会

【山形】三瀬地区自治会



環境教育における「ESD 推進」のための先導的取組調査・実践拠点支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【岩手】マイムマイム奥州

環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業

【青森】NPO 法人
青森県環境パートナーシップセンター
【秋田】(一社) あきた地球環境会議

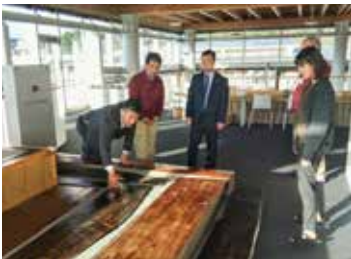
SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業

【山形】三瀬地区自治会



【秋田】(一社) あきた地球環境会議

運営第5期

	H31/R1(2019) 年度	R2 (2020) 年度	R3(2021) 年度
EPO東北 独自事業	みちのく薪びと祭り → ● 第6回 in 青森おおわに EPO 間連携 ● 第3回 in 名取トレイルセンター ビジターセンター交流会 → 		
東北ESDセンター	・東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台 ・ESD 推進・地域研修会 in 青森 		
東日本大震災対応	福島ヒアリング 		
環境省伴走支援事業	【山形】三瀬地区自治会 →  地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施		

I -3. 情報発信の記録

運営第2期

H22（2010）年度

H23（2011）年度

H24（2012）年度

ウェブサイト等

環境の整備
情報発信ツールリニューアル

- Web-site
- メールマガジン
（月1回＋増刊号）
- リーフレット
- 封筒

H23（2011）年
3月11日（金）14時46分
東日本大震災

【緊急対応】
Web-site
3/17 閉館のお知らせ掲載
3/24～ 震災対応に関する
お知らせ掲載

Web-site

「3.11 あの時」特設ページ開設

- スタッフ発信「現地レポート」
- 「3.11 あの時」レポート配信



サイトリニューアル

- 「3.11 あの時」特設ページ
→常設ページへ
- 前年度掲載ページの移行



機関誌

- 紙面リニューアル
- 年2回発行



- 特集面に環境復興再生プロジェクトを掲載
- エコグッズ紹介面に復興支援商品を掲載



継続



- Vol.16（2012年11月号）～
特集面をEPO東北の取組紹介へ
変更

冊子等

ESD テキストブック
パートⅡ
広げよう東北の環境力
ESD つながる事例集



3.11 あの時
2011年版



運営第 3 期

H25 (2013) 年度

H26 (2014) 年度

H27 (2015) 年度

ウェブサイト等

サイトリニューアル



7月16日

Web-site 障害発生

不正な改ざんを確認
→対応、対策協議
→サーバー初期化

メールマガジン

・月2回配信へ

6月14日
オフィス移転

・リーフレット改訂
・各種表示の改訂



サイトの新規構築

スタッフが構築していた体制を見直し、専門業者へ依頼



・3.11 あの時 2015 年版
レポート配信開始



機関誌

・特集面を取材記事の掲載に変更



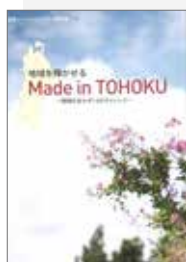
冊子等

3.11 あの時
2012 年版



◆ 3.11 あの時
2011 年版 増刷

3.11 あの時
2013 年版



環境ソーシャル
ビジネス事例集
地域を輝かせる
Made in TOHOKU
～環境を活かす
14 のチャレンジ～

3.11 あの時事例集
—中間支援組織
1 年間の後方支援
活動の記録—



EPO 東北 6 年間の
運営業務 総括
運営第 2 期～第 3 期



I -3. 情報発信の記録

運営第 4 期

H28 (2016) 年度

H29 (2017) 年度

H30 (2018) 年度

ウェブサイト等

- 東北地方 ESD 活動支援センター
- ・ウェブサイト開設 (9/1)
- ・リーフレット作成
- ・封筒改定



機関誌

- ・表紙をマイナーチェンジ
- ・東北 6 県トピックスデザイン変更



- ・特集面を寄稿記事に変更



冊子等

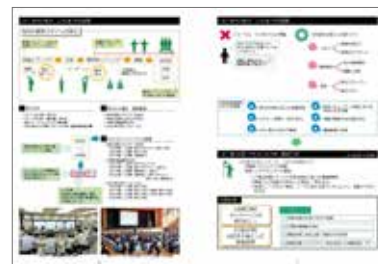
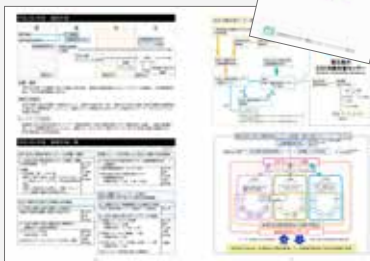
3.11 あの時
教訓事例集



EPO 東北
業務報告書の
ビジュアル化



東北 ESD センター
業務報告書の
ビジュアル化



運営第5期

H31/R1(2019) 年度

R2 (2020) 年度

R3(2021) 年度

ウェブサイト等

メールマガジン

- ・リニューアル(9月配信号から)
EPO 東北、東北 ESD センター
からの情報を掲載

リーフレット改訂

- ・EPO 東北、東北 ESD センター
のリーフレットを一本化



機関誌

- ・紙面リニューアル
- ・8 ページ→ 16 ページへ
- ・年 2 回発行→年 1 回発行へ

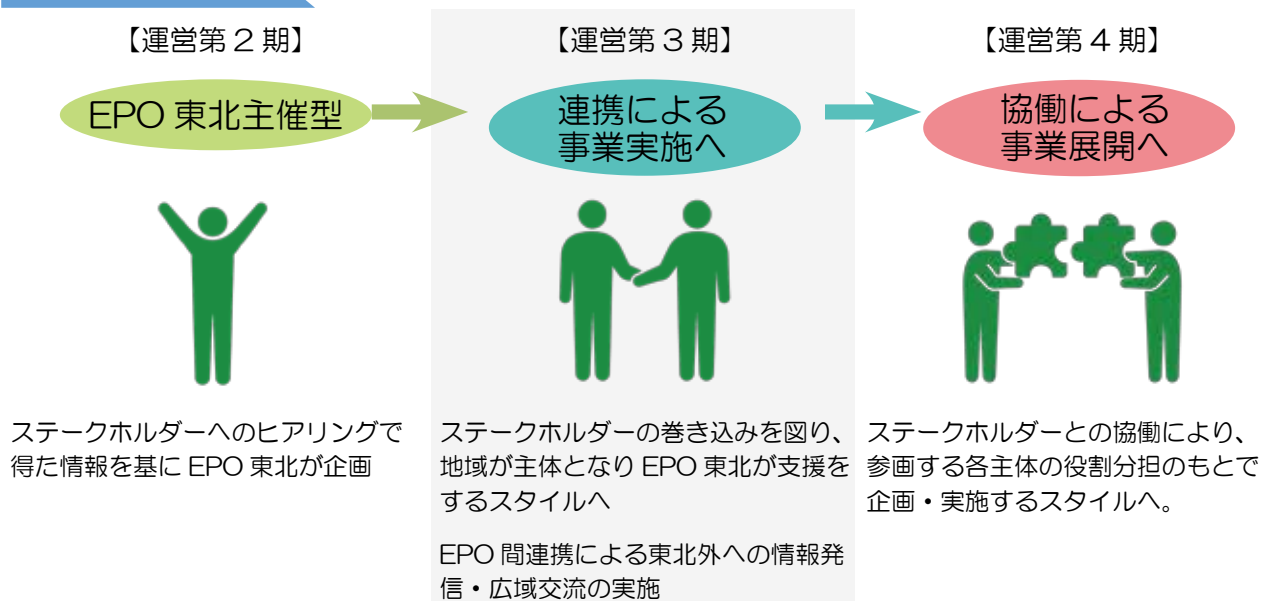
冊子等

SDGs 紹介チラシの作成

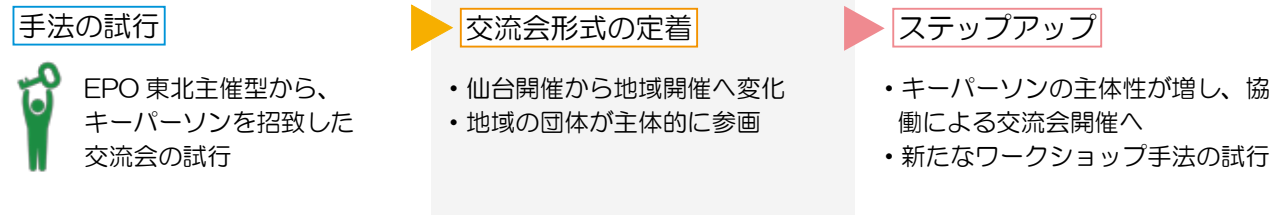


I -4. 総括

事業スタイルの変化



地域開催・交流会スタイルの定着



地域開催・交流会形式で得られた効果

①活動の活性化	②ゆるやかなネットワーク	③主体性の向上
課題を共有し、解決に向けた議論を行うことが刺激となり、モチベーションの向上や活動の底上げにつながった。	継続開催することで顔の見える関係ができ、団体同士の連携が生まれるなど県境を越えたゆるやかなネットワークが形成できた。	ステークホルダーがアウトカムを認識して主体性が増し、自分達も企画運営に携わる姿勢へと変化した。



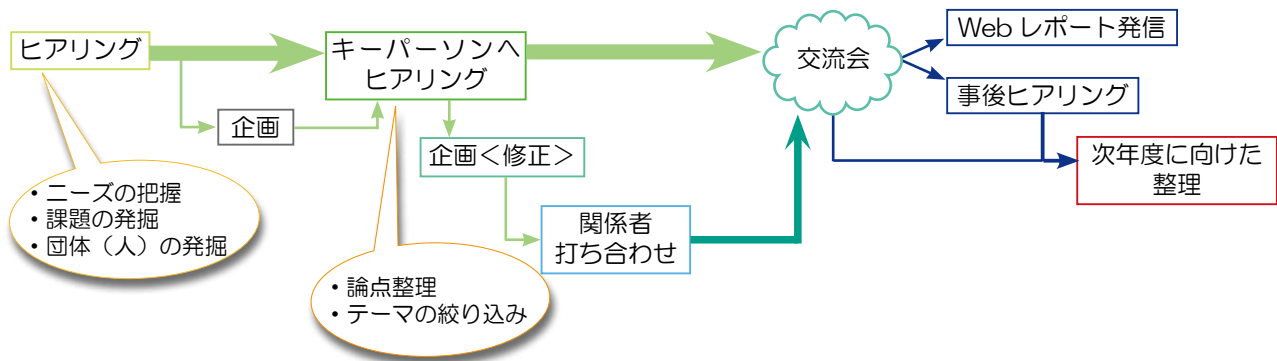
第 5 回みちのく薪びと祭り in 秋田梅内 分科会 (2018/11/3)

《ヒアリングで得た参加団体からのコメント等》

- ・交流会の開催をきっかけに地域のネットワークが強固になり、新たな団体が立ち上がるなど地域活性化に大きく貢献した。
- ・開催準備を通して新たな団体の掘り起こしができ、地元団体同士のマッチングの機会になっている。
- ・他の団体と関わる中で自分の団体の強みや弱みを見つめ直し、視野を広げる機会になっている。
- ・地域開催をきっかけに地域住民に活動の認知が広がり、活動への参加メンバーが増えた。
- ・良い刺激になり、勇気づけられ、自分たちも頑張ろうという気持ちになることがいつも大きな成果だ。
- ・東北の各団体の現場を回りながら交流と議論を深めることが、お互いの活動を継続させるための大きなモチベーションになっていると感じる。

訪問ヒアリングスタイルの定着

平成 22（2010）年度から試行錯誤を繰り返し、訪問ヒアリングを通して地域と向き合う EPO 東北ならではのスタイルが定着した。EPO 東北が実施したい事業を展開するのではなく、地域の困りごとや課題、応援してほしいことに耳を傾け、その奥にある課題の本質を掘り起こすことを心がけている。運営第 3 期以降は、ヒアリングを通じて築いたネットワークから講演やワークショップの依頼、事業の相談を受けることが増えている。



訪問ヒアリングで 得られた効果

①ネットワーク拡大

積極的に現場へ行くことで地域の人に出会えること、人づてのご紹介もありネットワーク広がった。



②関係性の構築

Face to Face で話をすることで顔の見える関係性が構築できた。EPO 東北のネットワークの礎となっている。



③ニーズに合った企画

必要とされていること、求められていることを探ることが、地域のニーズに合致した企画の実施につながった。



運営第 5 期に向けて EPO 東北、東北 ESD センターに期待される役割

1. 人や情報をつなぐ
2. ローカルな取組を取り上げていく
3. 各地域の連携・交流の支援
4. 活動への支援
(講師や人材の派遣、事業の共催・協力)
5. 取組情報の発信



運営第 5 期

令和元年～3 年度（2019～2021 年度）

平成 31 年度（令和元年度）事業計画書

Ⅱ -1. 運営第5期 中期事業計画

課題

東北ならではの

- ・東北ならではの環境活動の促進
- ・東北らしい協働事例の創出

中間支援機能の強化

- ・1団体ではできないことの支援
- ・異分野の橋渡し

業務の効率化

- ・EPO 東北業務と東北 ESD センター業務

期待される役割

情報提供

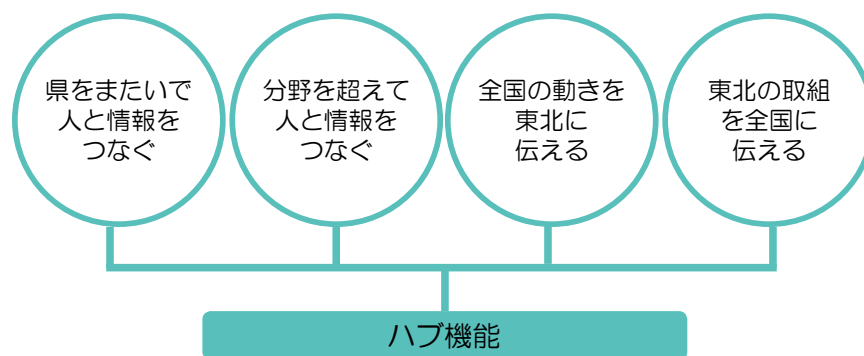
- ・東北の取り組み事例の発信
- ・他の取組事例の情報提供

協働の実践

- ・東北×他ブロックの広域連携
- ・活動の具体的な支援

場づくり

- ・相互交流と学びあいの場づくり



EPO 共通の事業

- 伴走型支援業務
 - ・同時解決事業
- 環境政策に係る支援等

EPO 東北オリジナル事業

- 交流会型事業
 - ・みちのく薪びと祭り
 - ・ビジターセンター交流会
- 東日本大震災
 - ・学びの発信

東北 ESD センター事業

- プラットフォームの形成
 - ・東北 ESD フォーラム
 - ・ESD ネットワーク会議
- ESD 活動への支援
 - ・講師・人材の派遣
 - ・事業の共催・協力・支援
 - ・広域連携による相互交流

行動目標

対話を主軸とした事業展開

Face to Face による関係者とのコミュニケーションに重きを置いて、各事業を展開する。対話の中でニーズやウォンツ、地域の課題の把握に努め、企画の参考とする。

運営目標

「アイデアを広げる」会議体制の構築

各会議の運営手法を見直し、委員と共に事業の成果、課題を振り返り、次に向けた整理とアイデアを議論するフレキシブルな会議体制を構築する。

成果目標

東北モデルの創出

運営第1期～4期にかけて、行政や企業との連携が課題となってきた。運営第5期では新たなステークホルダーを加えたネットワークの拡充を目指し、多様な主体との事業連携・協働を進め、東北モデルを創出する。

Ⅱ -2. (1) 平成 31 年度 EPO 東北事業計画

業務の目的

本業務は、東北環境パートナーシップオフィス（以下「EPO 東北」という。）が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また、東北地方 ESD 活動支援センター（以下「ESD センター」という。）が国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国の EPO と地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）のネットワーク（以下「EPO ネットワーク」という。）を活用するとともに、東北地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及び ESD 活動等を活性化させることを目的とする。

業務の内容

EPO 東北運営業務

様々な主体による協働・連携の取組を通じた環境保全活動等を活性化するため、市民、NPO/NGO、行政、企業等との連携を確保しながら、持続可能な社会の実現に向けた① SDGs をツールとした協働による地域における環境・社会課題の同時解決の推進、②環境教育・ESD の推進、③環境政策の支援等を行い、これらを担う地域の中間支援機能の強化を促進する。また、これらの活動状況等について、メールマガジン、ホームページ等を通じて発信する。

1) 基本業務

① Web サイト等を活用した情報発信、PR

EPO 東北の Web サイト等を活用し、各事業の実施状況のほか、行政機関の動き、公募・助成金情報、イベント情報等を地域内外に発信すること。また、内容に応じ、広報誌の作成やメーリングリスト等の活用による情報発信も行う。

②相談対応・対話の場作り

環境教育等促進法第 19 条第 1 項に基づく国の拠点として、各種情報紹介及び相談に対応し、必要に応じて助言や各種会合への参加等を行う。また、必要に応じてパートナーシップ形成のための対話の場作り、過去に対応した案件についてのフォローアップを行う。

③全国事業に関わる業務

各地方 EPO 間の連携強化と情報共有を目的とした全国 EPO 連絡会議（2 回程度を想定）へ出席する。また、上記業務の進行管理や連絡調整の目的で開催される会合等に必要に応じて出席する（1 回程度想定）。

2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務

①採択団体及び東北地方環境事務所との連絡調整

本業務の進行管理に必要な連絡調整を行う。

②採択団体・審査委員からなる連絡会議の開催ならびに東京で開催される成果共有会への出席

採択団体との連絡会を業務期間内に 1 回程度開催し、事業の進捗状況を確認し、必要な助言を行う。なお、連絡会にはアドバイザー委員の出席に配慮する。また、環境省が開催する成果共有会に出席し、全国事務局からの依頼に協力する。

③採択団体の伴走支援

採択団体に対して、事業の進捗状況に応じて必要な支援を行う。また、採択団体による全国事務局への定期報告や成果報告等の作成にあたり、必要に応じて支援を行う。具体的には、採択団体事務局との打合せ（地域連絡会）を、採択団体所在地で 2 回、仙台で 1 回、計 3 回程度開催する。

④全国事務局が作成する様式に基づいた月次報告

全国事務局が示す様式に基づき、地方事務局としての支援内容等について、定期的な報告を行う。

⑤全国事務局が開催する会議への出席

本業務に関し、全国事務局が招集する連絡調整及び成果とりまとめのための会議に出席する。

⑥全国事務局による成果物作成等への協力

本業務の進行管理における全国事務局からの照会等に対応し、成果報告のとりまとめ等に協力する。

3) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

①パートナーシップ団体学習会

地域の窓口となるパートナーシップ団体※との更なる連携強化と、各地域での「第5次環境基本計画を踏まえたESD/SDGs、生物多様性」を普及させ、地域循環共生圏の実現に向けて多様な主体との連携の促進を図ることを目的とした学習会を開催する。

※パートナーシップ団体

EPO 東北では円滑に事業を推進するために、東北各県の窓口となる団体との連携・協力関係を築いており、総称して「パートナーシップ団体」と呼んでいる。

【青森県】NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター

【岩手県】NPO 法人環境パートナーシップいわて

【宮城県】NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター

【宮城県】NPO 法人環境会議所東北

【宮城県】仙台広域圏 ESD・RCE

【秋田県】NPO 法人環境あきた県民フォーラム

【秋田県】一般社団法人あきた地球環境会議

【山形県】NPO 法人環境ネットやまがた

【福島県】NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク

②ビジターセンター交流会

東北管内のビジターセンターにおける啓蒙活動及び情報発信等に関する技術の底上げや、連携した情報発信の検討を目的とした交流会を開催する。今年度 4 月に宮城県名取市でオープンした「名取トレイルセンター」を会場として想定する。

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

①再生可能エネルギー交流会「みちのく薪びと祭り in 青森」

東日本大震災の発災後、薪ストーブや薪風呂の活用事例が多く見られたことから、エネルギーの供給リスクの軽減という視点からも注目されている。地域循環エネルギーとしての可能性を探るために EPO 東北では平成 23 年度から本テーマに取り組んできた。平成 26 年度からは薪をテーマに活動する団体の活動の活性化を目指し、東北各県で「みちのく薪びと祭り」を開催してきた。第 6 回目の開催を迎える本年度は青森県で開催する。

青森県のキーパーソンである「くべる部」を中心に企画を立案する。また、第 1 回より参画している各県の代表団体による「キーパーソン会議」を開催して合意形成を図り、会議参加メンバーの協働による運営を目指す。

②情報発信拠点との連携強化におけるヒアリング

福島県内で東日本大震災復興活動及び環境活動に取り組む団体へヒアリングを行い、交流の場づくり及び情報発信の強化へ繋げていく。

5) 事業検討委員会の開催

本業務の実施に当たっては、NPO、行政、企業等幅広い関係者の参画を得る必要があるため、「EPO 東北事業検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置し、仙台市内において年 2 回程度開催、業務実施計画（案）や事業方針等について協議する。

今後、EPO 東北業務を推進するにあたり東北地方 ESD 活動支援センターとの業務連携が不可欠なことから、事業検討会議を東北地方 ESD 活動支援センターの企画運営委員会と合同で開催しお互いの状況把握に努める。

Ⅱ -3. (2) 平成 31 年度東北 ESD センター事業計画

東北地方 ESD 活動支援センター業務

多様な主体が参画・連携して ESD 活動に取り組むための地域の活動拠点形成を推進・支援するとともに、ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム（以下「東北コンソーシアム」という。）との更なる連携をする。実践者の声を踏まえ、情報の一元的な発信、ネットワークの構築、地域の活動支援等を行い、東北地方における ESD 活動の促進・活性化を図る。

1) ESD 活動に関する相談・支援窓口

地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NPO/NGO、企業等）等（以下「ESD 活動実践者等」という。）から、ESD 活動を実践するに当たって相談や支援の要請があった場合は、適切に対応する。

2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

ESD 活動実践者等に対し、東北管内の ESD 活動に関する情報を収集し発信するとともに、ESD 活動に関するプログラム・資料等を収集し、求めに応じて提供する。

3) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等

ESD の推進に取り組んできた自治体・企業の担当者、学識経験者、地方で環境保全活動に取り組んでいる専門家からなる東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会（以下「企画運営委員会」という。）を設置し、地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NGO/NPO、企業等）等の支援や地域における ESD の普及・啓発等の方策について、検討する。

平成 31 年度は企画運営委員会を 2 回程度開催し、東北 ESD センターの効果的な運営に向けて、東北 ESD センターの活動方針等について議論を行う。

今後、東北 ESD センター業務を推進するにあたり EPO 東北業務との業務連携が不可欠ことから、企画運営委員会を EPO 東北の検討委員会と合同で開催しお互いの状況把握に努める。

4) 全国センター開催業務への出席及び対応

以下の会議やイベント等に出席し、得られた情報等を適宜、東北地方環境事務所担当官と共有するとともに、必要に応じて、企画運営委員会での議論に反映させる。また、地方センター Web サイト等を活用して地域 ESD 活動推進拠点や地域の ESD 実践者に情報提供を行う。

5) ESD 活動に関するネットワークの構築

地域の ESD 活動実践者・実践団体等がお互いの活動情報の共有など相互に交流できる機会を提供するなど、地域間・各主体間のネットワークの構築を図る。また、教育系を中心に ESD ネットワークを構築してきた東北コンソーシアムと、EPO 東北が持つ環境系ネットワークの更なる融合を目指し、会議、フォーラム等を通して相互理解を深め、東北の ESD ネットワークの拡充を目指す。

① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席等

全国センターが主催する ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（以下「全国フォーラム」という。）について、情報や資料の提供等の協力を行うとともに、これに出席し、各地域の ESD 実践者との交流を図る。

② 東北 ESD フォーラムの開催

地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として、東北 ESD フォーラムを開催する。

③地域 ESD 活動推進拠点※の登録及び支援

昨年度は環境系の団体を中心に登録を呼びかけ、東北ブロックでは 10 団体が地域 ESD 活動推進拠点に登録した。今年度は教育関係やその他（学校、教育委員会、ユネスコ等）の団体の登録を促進するために、ESD 活動実践者等に対する情報発信に取り組む。また、地域 ESD 活動推進拠点との間で情報共有やイベント協力等の連携を図り、地域における ESD 活動の支援を実施する。

※地域 ESD 活動推進拠点

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした地域の ESD を支援する組織や施設に、「地域 ESD 活動推進拠点」としてご登録いただく仕組みです。地域 ESD 活動推進拠点には地方センターや他の地域 ESD 拠点とも連携・協働して、ESD の活動や学びを深めること、学びの機会や場を広め、担い手を増やしていくことが期待されています。

■東北地方 地域 ESD 活動推進拠点（2019 年 5 月 20 日時点）

- 1.【青森県】NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター
- 2.【岩手県】NPO 法人環境パートナーシップいわて
- 3.【宮城県】公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
- 4.【宮城県】公益社団法人仙台ユネスコ協会
- 5.【宮城県】気仙沼 ESD／RCE 推進委員会
- 6.【秋田県】一般社団法人 あきた地球環境会議
- 7.【山形県】NPO 法人環境ネットやまがた
- 8.【福島県】NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
- 9.【福島県】福島工業高等専門学校
- 10.【福島県】只見町教育委員会

④ ESD ネットワーク会議

地域ネットワークの代表者や各セクターの代表者等が地方 ESD センターへの情報提供・提言等を行うとともに ESD 活動の情報交換等を行うことによって、様々な主体間の連携を図り、東北 ESD ネットワークの構築を図る。開催にあたっては東北コンソーシアムと相談の上、効果的な時期やテーマを確定する。

⑤ ESD 推進・地域研修会

青森県の地域 ESD 活動推進拠点の活性化と拠点間の連携による地域からの ESD 推進の底上げを図るため、研修会を 1 回程度開催する。開催にあたっては青森県の地域 ESD 活動推進拠点と協働で企画運営を行う。

⑥その他

東北地方における ESD 推進のための一元的なネットワークを構築するため、専門家や関係する団体・組織の代表者等との連携・協力を図りながら上記業務を実施する。

なお、記載以外の地方 ESD センター業務については、東北地方環境事務所と協議の上決定する。

Ⅱ -3. (1) 平成31年度EPO東北事業計画一覧

(1) 基本業務

- 1) Web サイト等を活用した情報発信、PR
 - ① Web サイト
 - ② メールマガジン（月2回配信）
 - ③ 機関誌 EPO 東北通信（年1回）
 - ④ EPO 東北 リーフレットの改定
- 2) 相談対応・対話の場づくり
- 3) 全国事業に関わる業務
 - 全国 EPO 連絡会議（年2回）
- 4) 施設の維持・管理

(2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務

- 1) 採択団体及び東北地方環境事務所との連絡調整
 - 【採択団体】三瀬地区自治会（山形県鶴岡市）
 - 【事業名】鶴岡市三瀬地区木質バイオマスエネルギー自給自足活動事業
- 2) 採択団体・審査委員からなる連絡会議の開催ならびに東京で開催される成果共有会への出席
 - ① 連絡会（鶴岡市三瀬、1回）
 - ② 成果共有会（東京）
- 3) 採択団体の伴走支援
 - ・採択団体との定期打合せ（地域連絡会、3回）
- 4) 月次報告の作成
- 5) 全国事務局が開催する会議への出席
 - ・連絡調整会
 - ・成果取りまとめの会議
- 6) 全国事務局による成果物作成等への協力

(3) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

- 1) パートナーシップ団体学習会

地域循環共生圏の実現に向けて多様な主体との連携の促進を図ることを目的に、第5次環境基本計画を踏まえた ESD / SDGs、生物多様性についての学習会を開催する。
- 2) 環境学習施設等との会議の開催
「ビジターセンター交流会」

生物多様性に関する普及啓発や情報発信の強化を図り、施設間の連携を促進することを目的に東北管内のビジターセンター等を対象とした交流会を開催する。

(4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

- 1) 再生可能エネルギー交流会
 - ① みちのく薪びと祭りキーパーソン会議

東北各県のキーパーソンがみちのく薪びと祭りに主体的に関わり、協働で企画運営を行うことを目指し、合意形成と企画協議のための会議を2回程度開催する。
 - ② 「みちのく薪びと祭り in 青森（仮）」

東北の特色を生かした環境活動の促進を目的とするネットワークの創出を目指し、多様な主体が協働で企画運営に携わる交流会を開催する。
- 2) 福島県ヒアリング

福島県内で東日本大震災復興活動及び環境活動を行っている団体4団体程度にヒアリングを実施し、交流の場づくり及び情報発信の強化へ繋げていく。

(5) 事業検討委員会の開催

- ・東北地方環境事務所との協議のうえで事業検討委員会を設置する
- ・事業検討委員会（年2回）

年間スケジュール

事業名	4月	5月	6月	7月	8月
SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務	地域連絡会① ・月次報告／毎月提出、伴走支援		採択団体主催会議①	連絡調整会議①	
環境基本計画に沿った環境教育支援業務	ヒアリング	企画調整 企画調整	企画準備	パートナーシップ団体学習会 企画準備	
拠点間連携による地域内の中間支援機能強化	ヒアリング	企画調整	キーパーソン会議①		
ESD 活動に関するネットワークの構築		企画調整	企画調整	企画準備	
会議等	事業運営会議① ≪随時≫ ・相談対応 ・事業連携協力 ・情報受発信	ESDセンター連絡会①	事業検討委員会① 企画運営委員会① 全国 EPO 連絡会①	事業運営会議②	

Ⅱ -3. (2) 平成 31 年度東北 ESD センター 事業計画一覧

(1) ESD 活動に関する相談・支援窓口

ESD 活動を実践するに当たって相談や支援の要請があった場合は適切に対応する。

(2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

Web サイトの運用

(3) 企画運営委員会の運営等

企画運営委員会（年 2 回）

(4) 全国センター開催業務への出席

ESD 活動センター連絡会議（年 3 回）

(5) ESD 活動に関するネットワークの構築

1) ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席
開催日：12/20（金）～21（土）、東京

2) 東北 ESD フォーラムの開催（1 回）
多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として、東北 ESD フォーラムを開催する。

3) 地域 ESD 活動推進拠点の登録及び支援

4) ESD ネットワーク会議（1 回）
地域 ESD ネットワークの代表者や各セクターの代表者等による ESD 活動の情報交換を行い、東北 ESD ネットワークの構築を図る。

5) ESD 推進・地域研修会（1 回）
地域 ESD 拠点の活性化と拠点間の連携による地域からの ESD 推進の底上げを図るために研修会を開催する。

9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
連絡会①	地域連絡会②	地域連絡会③	採択団体主催行事	連絡調整会議②	採択団体主催会議①	成果共有会
ビジターセンター交流会						
企画準備	キーパーソン会議②	第 5 回 みちのく薪びと祭り		事後フォローヒアリング		
ESD 推進・地域研修会	企画準備		ESD ネットワーク会議 東北 ESD フォーラム			
			ESD 全国フォーラム			
事業運営会議③		事業運営会議④		事業運営会議⑤		
	事業検討委員会② 企画運営委員会②					
	ESD センター連絡会②			ESD センター連絡会③	全国 EPO 連絡会②	

運営第5期
令和元年～3年度（2019～2021年度）

平成31年度（令和元年度）事業報告書

Ⅲ -1. 平成31年度 総括

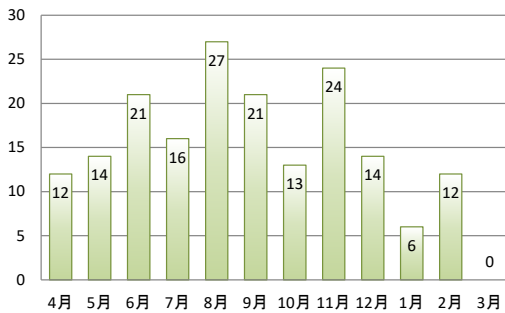
	EPO 東北	東北ESDセンター
重点事業と成果	(1) 再生可能エネルギー交流会 「みちのく薪びと祭り」 地域開催型交流会として平成26年に始まった「みちのく薪びと祭り」が6回目を迎え、東北を1巡することができた。相互に学び合う交流の場としての定着が見られ、第1回から参加するメンバーはキーパーソンとして企画運営に参画し、開催地の受け入れ団体との協働で開催する催しへと発展した。 東北ならではの地域性を強く意識した一体感が生まれ、このネットワークはEPO東北にとっても大きな財産となっている。 (2) 東北地方ビジターセンター及び関係機関・組織意見交換会 平成30年度から実施に取り組み、通算で3回目の開催となった。相互交流を行いながらネットワークづくりと活動の底上げを目的とした。 各センターの職員同士の交流の場としての認識が芽生え、積極的な参加が得られた。また、EPO九州の協力により九州地方の事例紹介を通して、意見交換会の意義を改めて認識してもらうことができた。継続開催をすることで、事業を通してEPO東北と接点がない各センターとの関係構築を進めることができた。 【共通】 (1) 会議運営の見直し これまで別々に開催していた「EPO東北 事業検討委員会」と「東北ESDセンター 企画運営委員会」の運営を根本から見直し、合同で開催することで各委員が相互に情報を把握し意見交換を行う場が形成できた。開催時期を春期と秋期へ変更し、委員の意見を企画に取り入れる運営方法を試行した。また各委員と事務局が連携・協力して事業を進める体制を整えた。 (2) 情報発信ツールの見直し 平成30年度まではEPO東北と東北ESDセンターの情報発信ツールは分けて行っており、東北ESDセンターの情報発信においてメールマガジンや紙媒体での発信は見合わせていた。本年度はこれを見直し、リーフレット、メールマガジン、機関誌において情報発信ツールを一本化し、各媒体にEPO東北、東北ESDセンターの情報を掲載した。これに伴い機関誌の役割を見直し、東北各県の活動情報を紹介する紙面からEPO東北や東北ESDセンターの取組を掲載する内容へ新した。今後は広報ツールとして活用する。	(1) 青森県ESD/SDGs勉強会 ESD推進を具体的に支援する地域モデルを創出しようと、地域ESD活動推進拠点を中心に青森県内の教育関係者などが参画するプロジェクトチームを立ち上げ、青森県ESD/SDGs勉強会を開催した。企画調整を進める中でプロジェクトメンバーの主体性が増し、青森県内でESDを推進していくきっかけを作ることができた。 青森大学・弘前大学の協力と青森県教育委員会・青森県の後援を得て、学校の教員を主な対象として開催した。ESD/SDGsについて認識を深めてもらうとともに、参加者のニーズに合致した機会を提供することができた。 (2) ESD活動に関する相談・支援窓口 SDGs(持続可能な開発目標)への関心の高まりとともに東北ESDセンターへ問合せが増え、これまで関係のなかった団体、企業、学校等との連携や協力が多く生まれた。ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムとも連携を図りながらESD活動の支援へつなげることができた。
課題	(1) 第五次環境基本計画に沿った事業展開 第五次環境基本計画では、SDGsやパリ協定、複雑化する社会の課題を踏まえ、複数の課題の統合的な解決という考え方も活用した「地域循環共生圏」が提唱され、2018年12月には気候変動への適応を推進することを目的として気候変動適応法が施行された。これらの施策を把握して地域の取組を支援することが求められる。 (2) 交流会事業の発展 みちのく薪びと祭りは東北を一巡し、各キーパーソンが主体性を持って参画していることから次のステージに進む必要がある。一方でビジターセンター及び関係機関を対象とした意見交換会は、活動の底上げと東北のネットワークづくりを目指して継続したアプローチが課題となる。	(1) 情報受発信の強化 SDGsの認知が東北でも少しずつ広がっているものの、具体的にどう取り組んでよいか分からないとの声も多い。学習指導要領が見直されて持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれ、小学校では2020年度、中学校では2021年度、高等学校では2022年度から実施される。こうした社会的な変化を背景にESD/SDGsに関する情報のニーズが高まることが予想されることから、情報受発信の強化が求められる。 (2) 地域におけるESDの推進 青森県ESD/SDGs勉強会の継続および発展を目指すとともに、地域モデルとして他地域への波及・展開が課題となる。

Ⅲ -2. 出張・外出のべ日数

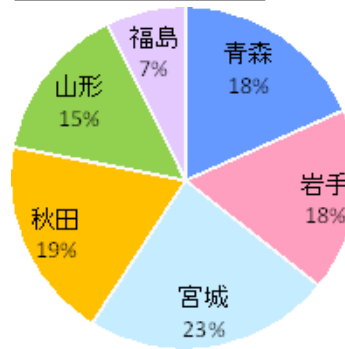
EPO 東北および東北地方 ESD 活動支援センター事業実施に伴い、関係者との打合せや会議参加などの定期的な外出に加えて、事業協力や相談対応のための外出が多く見られた。夏季は催事の参加や、秋季に開催する事業の打合せ対応による出張・外出が多い傾向がある。また地域循環共生圏プラットフォーム事業に関する会議等への参加のため 11 月の出張・外出が多かった。3 月はコロナウイルス感染症拡大防止の観点から予定されていた会議・催事等が中止または延期となり、出張・外出を自粛しウェブ会議での対応を行った。

のべ 180 日

■ 月別のべ出張・外出

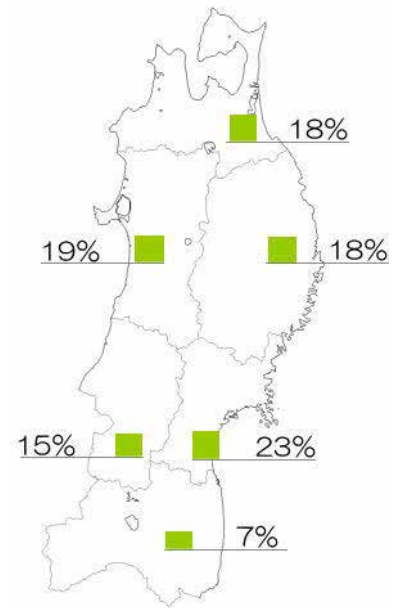


■ 地域別訪問状況

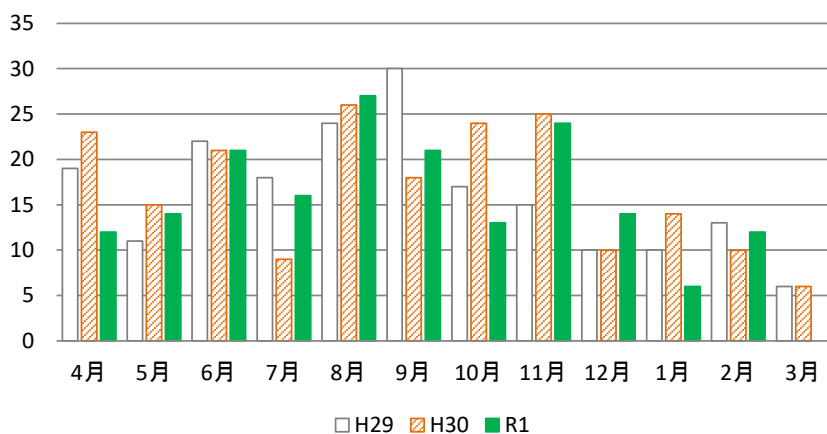


■ 東北 6 県訪問状況

のべ 137 日



■ 3 年間にける比較



東松島市訪問ヒアリング (5/18)



「海洋プラごみゼロ・プロジェクト」研修会 (8/19)

Ⅲ -3. 事業実施一覧

(1) 東北環境パートナーシップオフィス事業

1) 基本業務

- ① Web サイト等を活用した情報発信、PR
 - ・Web サイト
 - ・メールマガジン（月2回配信）
 - ・機関誌EPO東北通信（年1回）
 - ・リーフレットの改定
- ②相談対応・対話の場づくり
 - ・相談件数 48件
 - ・共催事業 3件
 - ・活動支援 16件
 - ・後援 4件
- ③全国事業に関わる業務
 - ・全国EPO連絡会議（年2回）6/26-27、1/16
- ④施設の維持・管理

2) SDGsをツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務

- ①採択団体及び東北地方環境事務所との連絡調整
 - 【採択団体】三瀬地区自治会（山形県鶴岡市）
 - 【事業名】鶴岡市三瀬地区木質バイオマスエネルギー自給自足活動事業
 - ・全体会（採択団体主催）6/17、2/3
 - ・九州・関東・東北合同研修会 8/29-30
- ②採択団体・審査委員からなる連絡会議の開催ならびに東京で開催される成果共有会への出席
 - ・連絡会（鶴岡市三瀬、1回）7/11
 - ・成果共有会（東京）2/23
- ③採択団体の伴走支援
 - ・採択団体との定期打合せ（地域連絡会、3回）4/17、11/12、12/26
- ④月次報告の作成
- ⑤全国事務局が開催する会議への出席
 - ・事業形成会議 6/21、11/19
- ⑥全国事務局による成果物作成等への協力



訪問ヒアリング（5/27）

3) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

- ①パートナーシップ団体学習会
 - ・パートナーシップ団体学習会 11/15
 - ②環境学習施設等との会議の開催
 - ・東北地方ビジターセンター及び関係機関・組織意見交換会 11/28
- ※9月～追加業務
- ③地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施
 - 【採択団体】（東北4団体／全国35団体）
 - NPO法人仕事人倶楽部（北岩手）
 - 一般社団法人Reborn-Art-Festival（宮城県石巻市）
 - 一般社団法人サスティナビリティセンター（宮城県南三陸町）
 - 会津森林活用機構（株）（福島県会津地域）
- ア) 採択団体へのヒアリングの実施
- イ) 意見交換会（地域開催）への参加
- 北岩手 11/25-26、石巻 11/22、南三陸 12/3、会津 11/7
- ウ) 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業に関する会議等への参加
- ・第1回情報交換会（キックオフミーティング）7/30
 - ・ブロック会議研究会 7/31、3/11
 - ・東北ブロックにおける事務局情報交換 9/5
 - ・地域循環共生圏PF事業支援取りまとめ会合 12/19
 - ・報告会 3/9、10

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化

- ①再生可能エネルギー交流会
 - ア) みちのく薪びと祭りキーパーソン会議 6/17、9/30
 - イ) みちのく薪びと祭り in 青森おおわに 10/26-27
- ②福島県ヒアリング
 - ・特定廃棄物埋立情報館「リブルンふくしま」 12/10
 - ・一般社団法人ならはみらい 12/10
 - ・NPO法人うつくしまNPOネットワーク 2/20
 - ・公益財団法人福島県観光物産交流協会 3/2

5) 事業検討委員会の開催

- ・事業検討委員会（年2回）6/3、9/9

(2) 東北地方 ESD 活動支援センター事業

1) ESD 活動に関する相談・支援窓口

- ・相談件数 49 件
- ・共催事業 8 件
- ・活動支援 13 件
- ・後援 4 件

2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

① Web サイト

※以下の媒体は EPO 東北と一本化して運用

- ②メールマガジン (月 2 回配信)
- ③機関誌 EPO 東北通信 (年 1 回)
- ④リーフレットの改定

3) 企画運営委員会の運営等

- ・企画運営委員会 (年 2 回) 6/3、9/9

4) 全国センター開催業務への出席

- ・ESD 活動センター連絡会議 (年 3 回)
5/16、10/17、1/15

5) ESD 活動に関するネットワークの構築

① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席

- ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム
12/20 (金) ~ 21 (土)

②東北 ESD フォーラムの開催 (1 回)

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台 2/9

③地域 ESD 活動推進拠点の登録及び支援

- 【東北地方】登録数 11 件

④ ESD ネットワーク会議 (1 回)

- ・ESD ネットワーク会議 2/9

⑤ ESD 推進・地域研修会 (1 回)

- 青森県 ESD/SDGs 勉強会 12/22

6) その他

関係する団体・組織との連携

- ① ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム、東北地方環境事務所との連携会議 (年 5 回)

5/29、8/2、9/25、12/25、3/4

(3) 東北地方環境事務所との協働、その他企業等との協働

1) 東北地方環境事務所との協働

- ・事業運営会議 (年 5 回)
4/22、7/25、9/3、11/11、1/14

2) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との協定に基づく連携

- ・地球環境基金主催 EPO 連絡会 8/1
- ・2020 年度地球環境基金助成金説明会 (仙台会場)
10/5

3) GreenGift 地球元気プログラム

①第 3 期 (2018 年 10 月~2019 年 9 月)

- ア) プログラム実施のサポート
【実施地域】青森県、岩手県、秋田県

イ) 会議等

- ・第 4 期プログラムミーティング 7/31
- ・全国振り返り会議 10/21

②第 4 期 (2019 年 10 月~2022 年 9 月)

- ア) プログラム実施のサポート

【実施地域】青森県、岩手県、山形県

イ) 会議等

- ・北海道・東北ブロック会議 3/12-13 ※延期



山形県東桜学高校国際理解講演会 (11/26)



宮城県中業企業家同友会 第 1 回わが社の SDGs 学習会 (6/13)

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

１）基本業務（仕様書番号Ⅳ - 1. - （１））

① Web サイト等を活用した情報発信、PR（仕様書番号Ⅳ - 1. - （１） - ア）

●情報収集

地域の課題やニーズを把握するとともに、地域で環境活動に取り組む関係者との関係構築を目的に、東北各地で対面による情報収集に努めた。SDGs への関心の高まりを受けて、行政や企業に対してヒアリングを行い、今後の事業連携に向けた情報収集に取り組んだ。

ウェブサイト

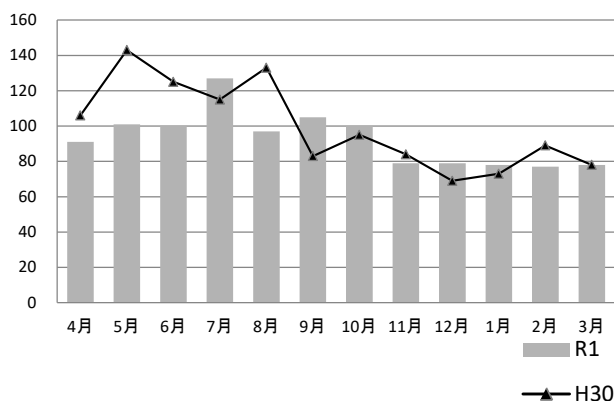
掲載コンテンツ

EPO 東北 基礎情報	EPO 東北概要、事業計画、事業報告、 オフィス案内、スタッフ紹介
環境 パートナーシップ	環境パートナーシップ支援、 環境教育等促進法、 事業型環境 NPO・社会的企業支援、 持続可能な開発のための教育 (ESD)
お知らせ	EPO 東北、環境省、各省庁、東北 6 県、市町村、イベント
助成金・募集情報	助成金、補助金、コンテスト等
活動のご報告	EPO 東北実施事業、催事協力、活 動協力のレポート
東日本大震災の レポート	※新規掲載なし
その他	エコの一日覧、スタッフつれづれ日 記、リンク、サイトマップ、ブライ バシーポリシー、お問合せフォーム

●情報発信

EPO 東北と東北 ESD センターの情報発信は別々に行ってきたが、これを見直してリーフレット、メールマガジン、機関誌の 3 つの発信媒体において一本化を図り、発信内容の整理を行った。

ウェブサイトアクセス数 1 日平均 92.7 件



メールマガジン

タイトル	東北えぼメール通信
内容	(1) EPO 東北からのお知らせ (2) 東北 ESD センターからのお知らせ (3) 環境省からのお知らせ (4) 助成金・募集情報
登録者数	1,169 名（新規登録 28 名）
配信	月 2 回
備考	9 月配信号から EPO 東北、東北 ESD センター、環境省の情報を掲載する内容にリニューアルした。

機関誌

タイトル	EPO 東北
内容	①巻頭対談 「EPO 東北と東北 ESD センター、振り返りと今後の展望」 ② EPO 東北事業紹介 ③東北 ESD センター事業紹介 ④他団体協力事業
発行部数	1,200 部
発行	年 1 回（R2.3 月）
備考	年 1 回の発行へ見直し、紙面を EPO 東北、東北 ESD センターの事業紹介を掲載する内容に一新した。

●事業総括

【成果】

- ウェブサイト内のメールマガジン登録フォームの活用率が低かったためトップページにバナーを設置し、登録者数が増加した。
- 機関誌では紙面の見直しを課題としていたが、東北の情報を発信する媒体から EPO 東北の活動を PR する媒体へと運用方針を変更した。東北 ESD センターの情報も掲載し、今後は広報ツールとして活用する。

【課題】

- ウェブサイトでは更新が滞るコンテンツがあり、体制について改善が課題となる。
- 現在のウェブサイトを開設してから 6 年が経過しており、掲載コンテンツやスマホ対応ブラウザへの移行について検討が必要である。



スタッフミーティング（7/29）

②相談対応・対話の場づくり（仕様書番号Ⅳ-1.-（1）-イ）

共催

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	8/19	宮城県 気仙沼市	気仙沼市海洋教育推進連絡会 気仙沼市教育委員会	「海洋プラごみゼロ・プロジェクト」研修会
2	10/26	秋田県 秋田市	あきた NPO 会議実行委員会	まなぶ！つながる！あきた NPO 会議 2019 SDGs で未来へつなげよう
3	11/21	岩手県 盛岡市	サステナビリティ・フォーラム 実行委員会	地域循環共生圏フォーラム 脱炭素・SDGs の実現を岩手から

活動支援・協力

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	4/23	宮城県 仙台市	東北大学公共政策大学院 深見ゼミ	東北大学公共政策大学院 SDGs ワークショップと EPO 東北との意見交換会
2	5/13	宮城県 仙台市	ペルノ・リカール・ジャパン（株）	SDGs 勉強会
3	6/9	宮城県 名取市	環境省東北地方環境事務所	みちのく潮風トレイル 全線開通記念式典・シンポジウム
4	8/6	宮城県 仙台市	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金 全国ユース環境 ネットワーク事務局	東北地区 高校生 SDGs セミナー
5	9/15	宮城県 名取市	北の里浜 花のかけはしネットワーク	花のかけはしプロジェクト Vol.14in 関上
6	9/21	青森県 弘前市	弘前大学生協	弘前大学生協全体会議 SDGs 学習会
7	9月	-	株式会社帝国データバンク	帝国ニュース東北版 9/26号 SDGs に関するインタビュー協力
8	9月	-	地球環境パートナーシッププラザ	つな環 34号（9月発行）寄稿
9	10/5	宮城県 仙台市	ストップ温暖化センターみやぎ	宮城県地球温暖化防止活動推進員 第1回推進員研修
10	10/16	宮城県 仙台市	宮城県保健環境センター	宮城県保健環境センター職員研修
11	11/6	山形県 酒田市	山形県環境エネルギー部	環境問題を考える SDGs カフェ in 庄内
12	11/18	山形県 山形市	環境企画課	環境問題を考える SDGs カフェ in 山形
13	11/23	秋田県 大館市	秋田県地球温暖化防止活動推進 センター（NPO 法人環境あきた 県民フォーラム）	地球温暖化対策に関するセミナー SDGs × 気候変動
14	12/7	秋田県 秋田市		
15	12/14	宮城県 仙台市	ストップ温暖化センターみやぎ	宮城県地球温暖化防止活動推進員 合同研修 （第3回新規推進員養成研修・第2回既存推進員研修）
16	1/18	秋田県 大曲市	秋田県生活環境部 温暖化対策課 調整・省エネルギー班	地域コミュニティ活性化セミナー ～地域活動と環境保全を考える～



まなぶ！つながる！あきた NPO 会議 2019（10/26）



環境問題を考える SDGs カフェ in 庄内（11/6）

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

１）基本業務（仕様書番号Ⅳ -1.-（１））

②相談対応・対話の場づくり（仕様書番号Ⅳ - 1.-（１）- イ）

後援

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	6/8	宮城県 名取市	北の里浜 花のかけはしネットワーク	海辺と未来のエコトーンフォーラム ～地域の宝「うみべ」で楽しもう！
2	6/27	岩手県 盛岡市	NPO 法人 環境パートナーシップいわて	バイオマスパワーセミナー 第 1 回気体：メタン
3	8/9	岩手県 紫波町		バイオマスパワーセミナー 第 2 回液体：微細藻類
4	10/15	岩手県 盛岡市		バイオマスパワーセミナー 第 3 回固体：木質の全般利用など

委員協力

No.	主催	会議名
1	宮城県環境生活部環境政策課	ダメだっちゃん温暖化県民会議
2	宮城県自然保護課	宮城県自然環境保全審議会
3	仙台管区气象台	東北地方気候情報連絡会
4	一般社団法人あきた地球環境会議	コタキナバル市におけるゴミ分別・回収 ガイドライン事業
5	一般社団法人あきた地球環境会議	サバ州地球温暖化防止活動推進センター 設置事業
6	福島地方環境事務所	情報発信拠点 運営委員会

その他相談対応

- ・企画への助言
- ・講師紹介
- ・広報協力
- ・情報提供、事例紹介

等
相談対応件数 48 件

③全国事業に関わる業務（仕様書番号Ⅳ - 1.-（１）- ウ）

会議名	開催日	場所	参加
全国 EPO 連絡会議	第 1 回	6/26-27	広島
	第 2 回	1/16	東京
			井上、鈴木、小泉、 石木田、吉田
			井上、鈴木

④施設の維持・管理 （仕様書番号Ⅳ - 1.-（１）- エ）

開館状況	開館日数	231.5 日
	来場者数	639 人
会議スペース の提供	利用件数	51 回
	利用者数	298 人
図書資料等 の提供	提供実績	165 回
	追加収集した資料等	128 件



東北大学公共政策大学院 SDGs ワークショップ意見交換会（4/23）



第 1 回全国 EPO 連絡会議（6/26）

2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務 (仕様書番号Ⅳ-1.- (2))

●事業背景

日本では平成 28 年に SDGs 推進本部を設置して取組を推進しているが、国内では SDGs についての理解や具体的な取組等が十分に進展しているとは言えない状況にある。本事業は地域における環境課題への取組を、SDGs を活用することにより他の社会課題の取組と統合的に進めることで、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を促進することを目的としている。

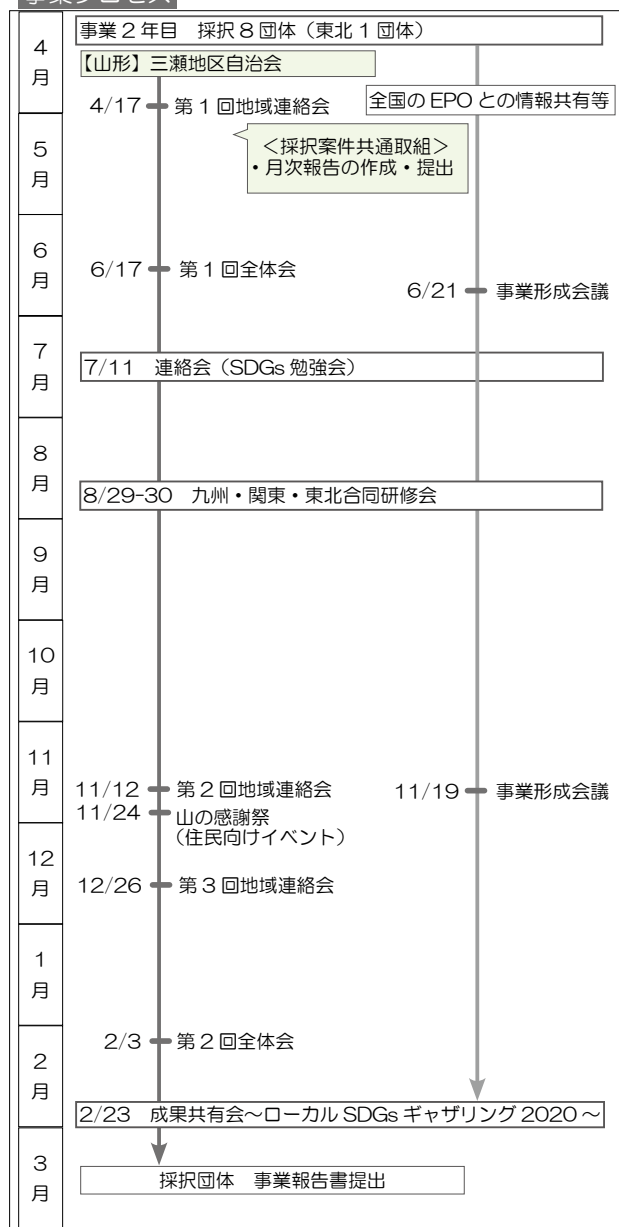
事業全体の実施期間は平成 30 年から 31 年度までの 2 ヶ年とし、公募により全国で 8 事業が採択された。地方 EPO は地域支援事務局として伴走型支援を行った。



採択団体【山形】三瀬地区自治会

プロジェクト名：鶴岡市三瀬地域 木質バイオマスエネルギーの自給自足活動

事業プロセス



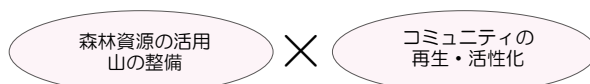
●事業背景

昭和 25 年頃には 3,500 人いた人口が、現在では 1,500 人を割り少子高齢化に直面している。林業衰退の影響で森林荒廃が広がり、地域内で利用されているエネルギー（重油、灯油）を貨幣換算すると地域外に約 1 億円が流出している。人口減・コミュニティの保持への対策として、三瀬地域では再生エネルギー事業、防災事業などさまざまな事業に取り組んでいる。

●本事業で解決に取り組む地域課題

- ・地域材の活用がない
- ・里山の荒廃と里山利用の減少
- ・住民の地域への関心低下

●プロジェクト概要



- ①地域材の活用
保育園、コミュニティセンター、高齢者福祉施設への薪ボイラー・薪ストーブ導入を目指す。
- ②里山の利用
地域住民向けのイベントを開催し、森林の価値、管理の大切さについて理解を図る。
- ③住民の地域への関心を高める
森林への興味を持ってもらいイベントを開催する。同時に参加者の健康促進、世代間交流の場づくりを行う。

●EPO 東北のアプローチ

- ・2019 年度版事業計画の作成支援を通じて、事業 2 年目の取組に向けた課題および最終目標の整理に取り組んだ。
- ・ステークホルダーの認識を深め、取組の中に SDGs の視点を取り入れてもらうため、連絡会の場の活用を図った。
- ・事業内容を地域内外に発信するツールとして、取り組みが一目でわかる紙媒体の作成を行った。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

2) SDGs をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援業務 (仕様書番号Ⅳ-1.- (2))

● 2 年目の取組

[SDGs 勉強会の実施]

開催概要

催事名	鶴岡から SDGs を発信しよう！ ～鶴岡市内の事例から SDGs を学ぶ～
開催日	R1.7.11 (木)
会場	荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）小ホール （山形県鶴岡市）
参加者	70 名
主催	EPO 東北、鶴岡市三瀬地区自治会
内容	話題提供 「SDGs ってなに？」 EPO 東北 鈴木美紀子
	事業紹介 三瀬地区自治会の同時解決事業について 三瀬地区自治会 石塚慶氏
	事例発表 ①三瀬保育園の取組み 三瀬保育園園長 本間日出子氏 ②小堅保育園の取組み 小堅保育園 土岐邦子氏 ③鶴岡市の取組み 鶴岡市食文化創造都市推進課食文化創造都市推進専門員 鈴木泰行氏
	講演 「SDGs に取り組むメリットとは？」 早稲田大学政治経済学術院 教授、 神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーションスクール 教授 島岡未来子氏



鶴岡から SDGs を発信しよう！（7/11）

● 事業総括

【成果】

- ・三瀬地区で合同研修会を開催したことが自治会役員をはじめ地域のステークホルダーにとって大きな刺激となり、事業への理解が深まった。その後の事業進捗に好影響を与える結果になった。
- ・事業 2 年目のスタート時に巻き込むべきステークホルダーを改めて整理してアプローチを行った結果、鶴岡市の複数の課や地域の多様なステークホルダーの参画を得て合意形成を進めることができた。

【課題】

- ・木質バイオマス導入検討では、予想を上回る導入費用となることが判明し議論が難航した。今後も地域でプロジェクトを進めるにあたり、イニシャルコストの高額さが大きな阻害要因となる。
- ・荒廃した山の整備は着実に成果が表れており里山の利用も進めているが、地域材の活用においては課題が多く継続して多様なアプローチを検討する必要がある。

[採択団体 3 地域による合同研修会の実施]

三瀬地区を会場に九州、関東、東北の 3 地域による合同研修会を実施した。多様なステークホルダーを巻き込みながらどのようにプロジェクトを進めているのか、意見交換と三瀬地区の現地視察を行った。



2 カ年事業の中で初めて合同研修会が行われた（8/29-30）

[薪ボイラー・薪ストーブの導入]

○三瀬保育園

昨年度設置した薪ボイラーの使用状況及び熱効率等を把握するため、数値データ収集を行った。

○コミュニティセンター

導入に向けて、予算管理をしている鶴岡市との合意形成を進めた。

○高齢者福祉施設

高齢者福祉施設の管理を行う鶴岡市社会福祉協議会との関係構築を図った他、利用者に対しては木にふれあう機会の創出を試みた。また高齢者福祉施設への木質バイオマス導入に向けて施設関係者との合意形成に取り組んだ。

[取組発信ツールの作成]

三瀬地区が抱える課題、解決に向けた取組内容、目指す地域の未来を盛り込んだリーフレットを作成した。



三瀬地区自治会主催 第 2 回全体会（2/3）

3) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務（仕様書番号Ⅳ-1.-（3））

①各県環境課訪問ヒアリング

●事業概要

担当者が異動となっても EPO 東北との関係性を継続させること、事業連携等の糸口を探ることを目的に、訪問ヒアリングを実施した。

●ヒアリングで確認したニーズ

- 今後の施策に SDGs を取り入れていきたい考えを持っているが、具体的にどのように進めたら良いかわからない。
- 県の基本計画に SDGs が入ったものの、実際に分野ごとにどのように取り組めばいいのかわからない。

●課題

- SDGs について担当者が自分の言葉で説明できない、具体的な取組の方策が明確ではない。
- 今後の業務で SDGs を意識していくことになることの認識はあるものの、業務の中でどのように取り組むかは課題となっている。

●事業総括

【成果】

- 平成 26 年度から毎年継続してきたことで、前任者から引き継ぎを受けているケースが増えており、情報照会や相談先としての認知が得られている。
- 対面による情報交換をきっかけに県職員が催事の視察に訪れ、県主催の事業に EPO 東北および東北地方 ESD 活動支援センターが事業協力を行うなど具体的な事業連携・協力につながった。

【課題】

- ヒアリング以上の関係が続いていない県もあり、継続してアプローチを行う必要がある。
- SDGs について認識は浸透してきたものの、具体的な取組が明確になっていない、認識が深まっていない段階であることが把握できた。支援・連携できるよう継続して情報交換を行いたい。

②パートナーシップ団体学習会

●事業背景

年 1 回程度、パートナーシップ団体と情報交換を行う機会を度設けてきたが、会議に留まらず各団体の学びの機会となるよう運営第 4 期に会の方向性を見直した。過年度には ESD プログラム開発の視察や、政策協働をテーマとしたワークショップを行った。

●課題

日頃から EPO 東北と事業連携、協働を行っているが、団体が一堂に会して情報交流を行う機会が少ない。また、SDGs に関する関心が各地で高まっている一方で、取組については団体や地域ごとに温度差がある。

●プロジェクト概要

SDGs に関する情報交換に焦点を当てて意見交換の場を設けることとした。また、環境省の取組について学び理解を深めるために、東北地方環境事務所より気候変動適応策および地域循環共生圏について話題提供をいただいた。

開催概要

催事名	パートナーシップ団体学習会
開催日	R1.11.15（金）
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	19 名
主催	EPO 東北
話題提供	東北地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官 金鋼一氏 廃棄物対策等調査官 谷津正吉氏
内容	(1) SDGs に関する各地の状況について 情報交換 (2) 東北地方環境事務所からの話題提供 1) 気候変動適応策について 2) 地域循環共生圏について

●EPO 東北のアプローチ

各団体の取組状況について事前に電話ヒアリング等を行った上で開催日程を調整し、企画を行った。



パートナーシップ団体学習会（11/15）

●事業総括

【成果】

- 対面で情報共有を行う機会があることで、各団体との円滑な事業連携・協働につながっている。
- SDGs について各地域で温度差はあるものの、企業、行政、学生、主婦など多様な主体が関心を持っていることが把握できた。

【課題】

- 本年度の学習会は各団体の取組や地域の状況について意見交換をする内容に留まった。参加メンバーが互いに学び合う場となるような場づくりが課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

３）環境基本計画に沿った環境教育支援業務（仕様書番号Ⅳ - 1.-（３））

③環境学習施設との会議の開催（東北地方ビジターセンター及び関係機関・組織意見交換会）

●事業背景

第５次環境基本計画では目指すべき社会の姿として「地域循環共生圏」の創造を掲げている。地域資源を活かし、地域の特性に応じて保管し、支え合う形を目指しており、生物多様性・森里川海を入口とした学習施設であるビジターセンター、インフォメーションセンターの活用が期待される。EPO 東北ではこれらの施設とのつながりが弱く、相互理解と学習の機会を設けネットワークの拡充に取り組むこととし、平成 30（2018）年度に２回の交流会を開催した。

●課題

- 各センターでは施設運営において多くの課題を抱えている。改善のために他のセンターの事例に学びたいニーズがある一方で、東北地区のビジターセンター間で横のつながりは希薄で、情報交換やスタッフ交流の機会がなかった。
- スタッフの研修の機会がなく、生物多様性、ESD、SDGs、地域循環共生圏など、今後重要となるキーワードについての認識や理解が低い。

●過年度事業で把握したニーズ

- 定期的に会って情報交換をしたい。
- ビジターセンター、インフォメーションセンターの話し合いの場は必要だと感じた。いろいろなビジターセンターでの開催を希望する。
- 各センターの課題が共通していたり、別の視点があり勉強になる。各ビジターセンターの取り組みなどを知りたい。
- 自分のモチベーションアップにつながった。今後も継続してほしい。

●プロジェクト概要

昨年度から引き続き第３回目となる交流会事業を実施した。相互交流と学びあいの場を作ることで、センター間で情報交換や連携が行われるような顔の見えるネットワーク構築を目的とした。

また新たに名取トレイルセンター、牡鹿半島ビジターセンターが開館したことから意見交換会への参加を呼びかけた。

●EPO 東北のアプローチ

①トレイルセンターとの連携

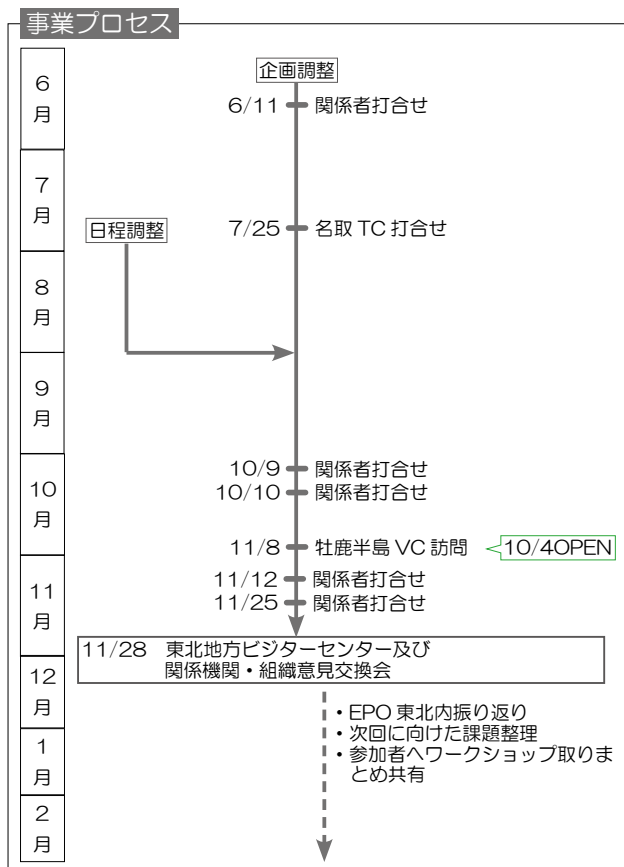
みちのく潮風トレイルの拠点施設との連携を図り、4/19に開設した名取トレイルセンターを会場とし、他の拠点施設へも交流会への参加を呼びかけた。

②交流会の意義の確認

EPO 九州では平成 27（2015）年度より九州ブロックのビジターセンター交流会を実施している。意見交換の場を企画した背景や意図、交流会を通して得られた成果について話題提供をいただくことで、東北での交流会開催の意義を改めて確認した。

③相互交流と学びあいの場づくり

他のセンターの活動を知り、自分達の活動を見直すきっかけとなるよう、各地域での体験プログラムを考えるグループワークを実施した。参加者全員が発言することで相互交流と学びの場となるよう企画した。



名取トレイルセンター打合せ（7/25）

開催概要

催事名	東北地方ビジターセンター及び関係機関・組織意見交換会	
開催日	R1.11.28（木）	
会場	名取トレイルセンター（宮城県名取市）	
参加者	45 名	
主催	EPO 東北	
協力	名取トレイルセンター	
内容	館内紹介	名取トレイルセンターより施設案内、事業紹介 NPO 法人みちのくトレイルクラブ 事務局長 関博充氏
	基調講演	「なぎさミュージアムの取組について」 くすのき自然館 代表理事 浜本奈鼓氏
	話題提供	「地域をつなぐビジターセンターの連携」 九州地方環境パートナーシップオフィス 統括 澤克彦氏
	ワークショップ	ワークショップ 「東北としてビジターセンターを考える」 【ファシリテーター】 一般社団法人コ・クリエーションデザイン 平田裕之氏



名取トレイルセンター



名取トレイルセンター館内紹介



くすのき自然館 浜本奈鼓氏の基調講演



EPO 九州 澤克彦氏の話題提供



ワークショップ：グループ内でアイデアを話し合う



ワークショップ：センター職員おすすめ旅行プランの発表

●事業総括

【成果】

- 九州地方の意見交換会の事例に対して「意見交換会の必要性を感じた」との感想が寄せられ、会の意義を感じてもらうことができた。
- 「自分たちのフィールドの特徴をもっとよく知らないと思った」との意見も出され、ビジターセンターのスタッフとして地域のことをより深く知る必要があることの気づきにつなげることができた。

【課題】

- 会の継続を望む声が多いが、EPO 東北が企画して場を提供するスタイルから、参加者が企画運営に主体的に関わる場となるよう運営手法の改善と発展が求められる。
- 個々の事業展開に留まらず、拠点施設として東北の歴史的背景や自然環境を踏まえた各地域の情報発信や連携ができる東北ネットワークの構築が課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

3) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務（仕様書番号Ⅳ - 1.-（3））

④地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む採択団体の支援等の実施

●事業概要

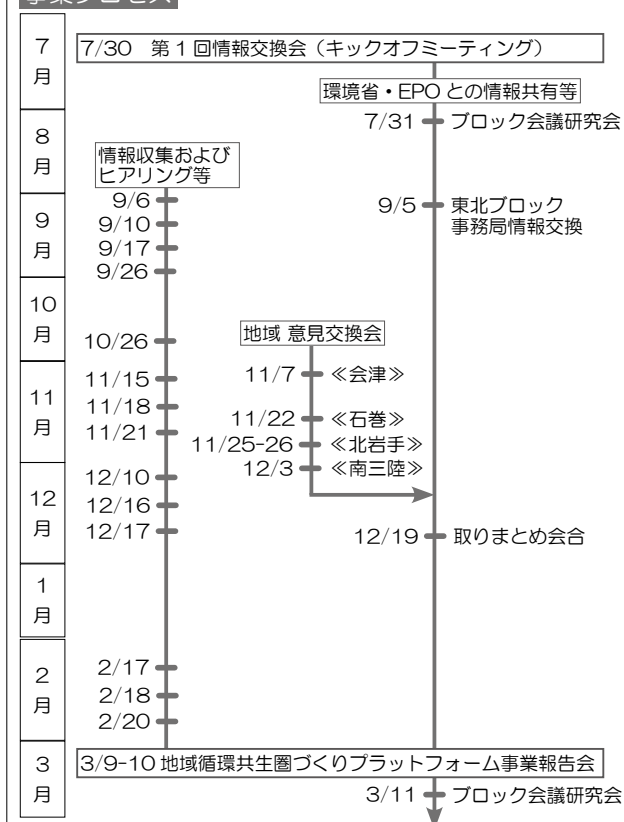
環境省では地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体（35 団体）を公募選定し、各活動団体と協働して「経済合理性と持続可能性を有する構想策定及びその構想を踏まえた事業計画の策定」、「地域の核となるステークホルダーの組織化」等に取り組んだ。

東北地方で採択された団体に対してヒアリングを実施し、今後の支援等メニュー拡大の糸口を探った。

●【採択団体】（東北 4 団体／全国 35 団体）

NPO 法人仕事人倶楽部	
活動地域	北岩手 9 市町村
活動テーマ	北岩手 9 市町村が連携した大都市圏との交流までを視野に入れた「北岩手循環共生圏」の構築
一般社団法人 Reborn-Art-Festival	
活動地域	宮城県石巻市
活動テーマ	持続可能な循環型社会の実現
一般社団法人サスティナビリティセンター	
活動地域	宮城県南三陸町
活動テーマ	地域経済循環と地域人材育成のリンク（連鎖）
会津森林活用機構株式会社	
会津地域森林資源活用事業推進協議会	
活動地域	福島県会津地域
活動テーマ	森活

事業プロセス



●とりまとめ会合における整理

（１）課題

- ・「ビジョン」が描けていない
- ・協働の意義、必要性が理解されていない
- ・この事業で創造したい価値が理解されていない
- ・地域循環共生圏、SDGs のポイントが伝わっていない
- ・中間支援組織機能の不足

（２）必要な支援

- ・課題の整理、深堀のサポート
- ・個別の事業の支援ではなく地域全体の視点から見た支援
- ・各案件のステージに応じたプロセス支援
- ・何のための事業なのか、どういことを地域全体で目指すのかを一緒に考え、マインドセットする。
- ・環境・経済・社会の3側面、SDGs の視点をういた説明、コンサルテーション
- ・関係構築のサポート

（３）事業全体の課題、必要な変化

- ・目指す姿の明確化
- ・1年間でできることを見直す
- ・支援側の関係者の機能の整理
- ・共生圏、SDGs をベースにしていることの意義の可視化



ブロック会議研究会（7/31）



《石巻》一社 Reborn-Art Festival 地域意見交換会（11/22）

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号Ⅳ－1.－（4））

第6回みちのく薪びと祭り in 青森おおわに

●事業背景／平成23年度からの継続事業

再生可能エネルギーは災害などによる供給リスクの軽減（エネルギー源の多様化と分散化が図れる）という社会的な側面を持つことが注目されている。特に、森林エネルギーにおいては震災時に薪ストーブが機能した事例が多く見られた。東北地方の豊富な森林資源の地域循環エネルギーとしての可能性を探るため、平成26年度より薪をテーマに活動する団体が一堂に会する「みちのく薪びと祭り」を実施し、東北各地の団体同士の交流が活発になっている。

●これまでの開催状況

	開催地	主催
第1回 (H26)	山形県鶴岡市 三瀬地区	みちのく薪びと祭り 山形実行委員会
第2回 (H27)	岩手県 遠野市	NPO 法人遠野エコネット、 EPO 東北
第3回 (H28)	福島県 南会津町	NPO 法人みなみあいづ森林 ネットワーク、EPO 東北
第4回 (H29)	宮城県大崎市 鳴子地区	NPO 法人しんりん、 EPO 東北
第5回 (H30)	秋田県能代市 二ツ井町	ニツ井宝の森林（やま）プロ ジェクト、EPO 東北



キーパーソン会議（6/17）

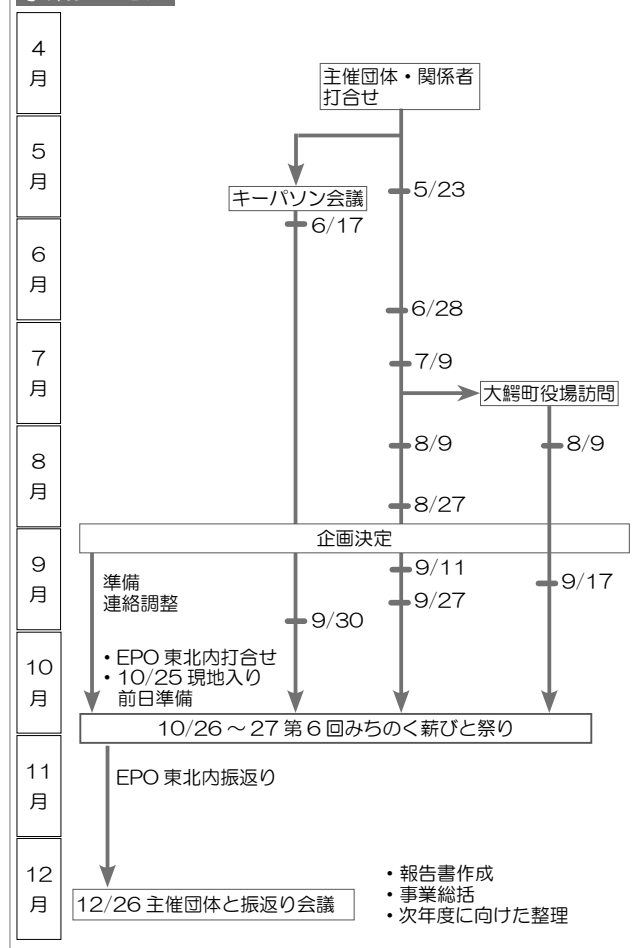


会場にて主催団体・関係者打合せ（7/9）

●キーパーソン会議での意見

- （1）昨年度の振り返り
- ・参加者から好評で開催地の自信につながった。
 - ・フィールドワークに参加することで自分の地域での活動のヒントを得た。
 - ・この一周は、お互いの課題や地域性を共有できた。
- （2）今後に向けて
- ・経緯や成果を検証して、次への方向性をみんなで検討してはどうか。
 - ・自分たちのよりどころ、目標をはっきりさせて取り組んでいく必要があると感じる。
 - ・目標は必要だと思うが、年に一度同窓会のように集まることも祭りの意義だと感じる。
 - ・これまで一周で東北6県の動きを共有できたので、次へのステップアップできる。

事業プロセス



Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

4) 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号Ⅳ - 1.-（４））

第 6 回みちのく薪びと祭り in 青森おおわに

●課題

- ・森林エネルギーをテーマに活動する団体同士が、県境を越えて継続的に情報交換や意見交換等行う交流の場が少ない。
- ・開催地である青森の団体の意向を反映させ、地域の関係者を巻き込むことで、活動の活性化に資する催しとなることが求められる。
- ・「みちのく薪びと祭り」が地域開催型の交流会として始まった当初、参加者と共に目標として掲げた「東北一巡」を今年度達成した。次年度以降みちのく薪びと祭りのあり方について、キーパーソンや関係者とともに議論する場を設け、合意形成を図る必要がある。

●プロジェクト概要

- ・協働によるネットワーク構築を手法に用い、東北地方の森林エネルギー活用（薪文化）水準の底上げを目的とする。
- ・青森県内の取組を東北各地の団体と共有し、情報交換や意見交換などの交流を通して、参加者が活動に取り組み上で抱える課題解決のヒントを得る機会とする。

●EPO 東北のアプローチ

- ①主体性を引き出す仕掛けの設定（H29 年度から継続）
各県のキーパーソンによる方向性検討会議を開催し、主体性を持って参加してもらえるよう合意形成を図った。
- ②EPO ちゅうごく、四国 EPO との連携
EPO ちゅうごく、四国 EPO の共催による企画運営を進めた。テーマである安全についての取組をご紹介いただき、地域を超えた学び合いや交流を促した。

開催概要

催事名	第 6 回みちのく薪びと祭り in 青森おおわに			
開催日	R1.10.26（土）～ 27（日）			
場所	○メイン会場：わにもっこ企業組合 迎賓館（青森県南津軽郡大鰐町） ○フィールドワーク会場：おおわに自然村生ハム工房（旧大鰐第 3 小学校 校庭）（青森県南津軽郡大鰐町）			
参加者	47 名（第 1 部 35 名／第 2 部 35 名／第 3 部 35 名／第 4 部 47 名）			
主催	薪ストーブ愛好会「くべる部」、EPO 東北			
共催	EPO ちゅうごく、四国 EPO			
協力	青森大学総合研究所 SDGs 研究センター、ウッドラック、いちのせぎ薪の会、NPO 法人遠野エコネット、NPO 法人吉里吉里国、西和賀町林業振興課、NPO 法人川崎町の資源をいかす会、NPO 法人しんりん、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク、ニツ井宝の森林（やま）プロジェクト、三瀬の薪研究会、やまがた自然エネルギーネットワーク、NPO 法人みなみあいづ森林ネットワーク、ふくしま薪ネット、NPO 法人湯田組、EIMY 湯本地域協議会			
後援	青森県、大鰐町、青森県森林組合、東奥日報、わにもっこ企業組合、おおわに自然村生ハム工房			
内容	第 1 部			
	講演 1	「森（木水土）の時代が、実は SDGs だった！」青森大学 佐々木豊志氏		
	講演 2	「日本型林業用作業着の開発」八戸市森林組合 工藤義治氏		
	第 2 部			
	活動発表	【青森県弘前市】久保田勝二氏 【EPO ちゅうごく】西村浩美氏、白川勝信氏 【四国 EPO】常川真由美氏		
	第 3 部			
	分科会	テーマ	セッション①今日の活動発表を受けての感想 セッション②薪づくりの安全対策 セッション③全体共有	
		コーディネーター	グループ① ふくしま薪ネット 渡部昌俊氏 NPO 法人川崎町をいかす会 菊地重雄氏 グループ② ニツ井宝の森林プロジェクト 船山富雄氏 薪ストーブ愛好会くべる部 佐藤時彦氏 グループ③ 遠野エコネット 千葉和氏 NPO 法人湯田組 星昇氏	
		ファシリテーター	GEOC 江口健介氏	
		講評	青森大学社会学部 教授 藤公晴氏	
	第 4 部			
	フィールドワーク	八戸市森林組合の取組事例実践 リンゴの木の薪割り等講座		
	コメンテーター	東北大学名誉教授、ノコギリスト 新妻弘明氏 青森大学社会学部 教授 藤公晴氏		



青森大学 佐々木豊志氏による講演



八戸市森林組合 工藤義治氏による講演



全体を3グループに分けて実施した分科会



分科会後の全体共有



フィールドワーク



フィールドワーク

●事業総括

【成果】

- 再生可能エネルギー交流会薪部会がスタートした時は「参加者」であったメンバーが、東北一巡を経て「みちのく薪びと祭り」を企画運営する重要なキーパーソンへと変容した。「自分たちが協働で企画運営している」という意識の基で主体的な参画があり、協働による運営体制が構築できた。
- 「みちのく薪びと祭り」を通して参加団体同士の交流が深まり、互いの活動フィールドを訪れ学び合うなど、相互交流の関係が構築できた。
- 東北らしさや東北ならではの地域性を強く意識した一体感が生まれている。キーパーソンを中心としたネットワークは、EPO 東北にとって大切な財産となっている。

【課題】

- 東北一巡を達成し、EPO 東北としてこれまでの総括を行うとともに今後の方向性について検討する必要がある。
- 環境省が掲げる地域循環共生圏や、全世界で取り組むSDGsなど、6年の間に外的要因も大きく変化している。社会的な変化を踏まえて「みちのく薪びと祭り」が今後どうあるべきか、キーパーソンや関係者とともに議論する場を設け、合意形成を図ることが課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（１）EPO 東北業務

4）拠点間連携による地域内の中間支援機能強化（仕様書番号Ⅳ - 1.-（４））

福島県内ヒアリング

●事業概要

福島県内で東日本大震災復興活動及び環境活動を行っている団体等との連携強化に向けたヒアリングを行った。

【ヒアリング団体】

特定廃棄物物理立情報館リプルンふくしま
一般社団法人ならはみらい
公益財団法人福島県観光物産交流協会
NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク



「みんなの交流館ならは CANvas」の施設見学（12/10）

●ヒアリングで確認したニーズ

- ・意見交換の場があると何らかの気づきが得られるため有益と感じている。
- ・研修の場は多いが、団体として職員を参加させる内容ではないことも多い。
- ・SDGs 等、言葉だけは聞こえてくるが団体内で承認を得るためには事例があると理解しやすい。

●事業総括

【成果】

- ・中間支援組織では SDGs に関するニーズに対応し、講師紹介や派遣に留まらず具体的な行動を後押しする支援が行われていることが分かった。
- ・対面ヒアリングによって得られる情報は多く、地域の状況を知ることができた。

【課題】

- ・地域で活動する団体と、EPO 東北および東北 ESD センターがどのように連携していけるのか、常日頃の情報交換のあり方を含め検討が必要となる。
- ・近年は実施事業に絡む外出が増えており、地域の情報を得るためのヒアリングは減少傾向にある。対面ヒアリングによる地域の状況やニーズを把握すること、ネットワークの拡充が課題となる。

5）事業検討委員会の開催（仕様書番号Ⅳ - 1.-（５））

●名簿（敬称略、順不動）

	氏名	所属・役職
議長	新妻弘明	東北大学名誉 教授、 日本 EIMY 研究所所長
委員	市瀬智紀	宮城教育大学 教員キャリア研究機構 機構長 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長
	小幡秀樹	株式会社サイコー 総務経理部兼人事広報部 参事兼部長
	藤公晴	青森大学社会学部 教授
	畠山順子	NPO 法人あきたパートナーシップ 副理事長
	渡部昌俊	ふくしま薪ネット
	稲村伸	宮城県環境生活部 環境政策課 課長
	戸田新	岩手県環境生活部 環境生活企画室 企画課長



第 1 回委員会（6/3）

●開催

第 1 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 1 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R1.6.3（火）
会場	EPO 東北（宮城県仙台市）
参加者	27 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	（１）会議主旨説明 （２）EPO 東北 運営第 4 期までの総括 （３）EPO 東北事業検討委員会 ①議長選出 ②令和元年度事業計画 ③意見交換 （４）東北 ESD センター企画運営委員会 ※オブザーバー出席 ①議長選出 ②令和元年度事業計画 ③意見交換
第 2 回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第 2 回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R1.9.9（月）
会場	仙台第二合同庁舎 2 階共用会議室（宮城県仙台市）
参加者	25 名（委員 7 名、代理出席 1 名）
内容	（１）EPO 東北事業検討委員会 ①事業の方向性について意見交換 ②企画について意見交換 （２）東北 ESD センター企画運営委員会 ①企画について意見交換 （３）全体意見交換

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方ESD活動支援センター業務

1) ESD活動に関する相談・支援窓口（仕様書番号Ⅳ-2.-（１））

共催

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	6/13	宮城県 仙台市	宮城県中小企業家同友会 環境経営委員会	第1回わが社のSDGs学習会 ～企業活動に役立つSDGsとは～
2	6/22	岩手県 盛岡市	環境学習交流センター	2030SDGs教育×観光 ～E-SDGsで修学旅行を迎えよう！～
3	7/7	宮城県 仙台市	公益財団法人 仙台ユネスコ協会	2019ユネスコカレッジESD講座
4	8/19 ～20	宮城県 仙台市	日本ESD学会 第2回大会実行委員会	日本ESD学会第2回大会
5	11/1	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会、 ESD/ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム、 気仙沼ESD/RCE推進委員会	気仙沼ESD／RCE円卓会議2019
6	11/8 ～13	宮城県 仙台市	公益財団法人 仙台ユネスコ協会	世界平和と防災プロジェクト ～平和な世界を未来につなぐSDGs～
7	12/5	福島県 いわき市	いわきユネスコ協会	ESD実践講座 第1回 SDGsとESDの基本を学ぼう
8	2/8	宮城県 仙台市	ESD/ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム	第4回学びあいセミナー

活動支援・協力

No.	開催日	開催地	主催	催事名等
1	4/24	宮城県 古川市	古川学園中学校・高等学校	総合的な探究の時間 導入学習 『世界を変えるための目標「SDGs」』
2	6/5	秋田県 雄勝郡	秋田県立羽後高等学校	ふるさと教育「羽後学」への導入に向けた 教員向けSDGs事前学習
3	6/19	宮城県 名取市	秋田県立羽後高等学校	ふるさと教育「羽後学」への導入に向けた SDGs事前学習
4	6/29	岩手県 奥州市	公益財団法人日本青年会議所 東北地区岩手ブロック協議会	ビジネスマッチ in えさし ～SDGsで企業価値を向上させよう！
5	7/17	宮城県 仙台市	SRC人財ネットワーク	SRC人財ネットワーク 第1回設立総会セミナー
6	11/26	山形県 東根市	山形県立東桜学館 中学校・高等学校	東桜学館高校国際理解講演会 「SDGsとは？世界の課題を自分事に考える」
7	11/29	福島県 郡山市	福島県観光物産交流協会	福島県教育旅行プログラムに係る研修会
8	12/6	岩手県 陸前高田市	陸前高田第一中学校	SDGs学習会
9	2/12	宮城県 仙台市	庄内自然博物館構想推進協議会、 鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	SDGs学習会
10	3/5	山形県 山形市	山形県 環境エネルギー部環境企画課	環境地域づくり担い手連携推進セミナー・ 山形県環境学習支援団体交流会 ※中止
11	3/17	福島県 郡山市	福島県観光物産交流協会	福島県教育旅行プログラムに係る研修会 SDGsセミナー
12	3/18	秋田県 北秋田市	秋田県立秋田北鷹高等学校	「課題研究」次年度構想発表会 ※延期
13	3/25	岩手県 北上市	岩手県空家管理業議会（仮称）	協議会設立記念 SDGsセミナー ※中止

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため催事が中止または延期となった

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

1) ESD 活動に関する相談・支援窓口（仕様書番号Ⅳ -2.-（１））

後援

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	5/18	宮城県 仙台市	福島浜通り復興創生キャンパスコンソーシアム 東日本国際大学・いわき短期大学	福島浜通り復興創生キャンパスコンソーシアム 設立記念シンポジウム
2	11/5	宮城県 仙台市	文部科学省 宮城教育大学	2019 年度第 1 回ユネスコスクール 北海道・東北ブロック大会
3	2/12	岩手県 奥州市	県南広域振興局	令和元年度 県南圏域環境交流フォーラム for SDGs
4	3/27 ～29	大阪府 茨木市	がんばろう！つばさネットワーク	被災地間の高校生交流で 町の元気に貢献する！親善野球試合

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため催事が中止となった

催事参加等

No.	開催日	開催地	主催	催事名
1	6/7	宮城県 気仙沼市	気仙沼市教育委員会	気仙沼 ESD / ユネスコスクール研修会
2	6/22	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム	第 1 回学びあいセミナー
3	8/1	宮城県 仙台市	仙台広域圏 ESD・RCE	仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会（第 1 回）
4	8/29	福島県 二本松市	福島県立安達高等学	安達高校ユネスコスクール公開 ESD 発表会
5	11/5	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム	第 3 回学びあいセミナー
6	11/22	福島県 南会津郡	只見町教育委員会	只見町 ESD（海洋教育）公開授業研究会
7	2/8	宮城県 仙台市	ESD/ ユネスコスクール・ 東北コンソーシアム	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム 運営委員会



秋田県立羽後高等学校 SDGs 事前学習会（6/19）



福島県教育旅行プログラムに係る研修会（11/29）



陸前高田第一中学校 SDGs 学習会（12/6）



鶴岡市自然学習交流館ほとりあ SDGs 学習会（2/12）

2) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等仕様書番号Ⅳ -2.- (2))

●情報収集

ESD 活動に取り組む関係者への訪問ヒアリング、催事参加を通して活動状況やニーズ、課題の把握に努めた。また、ウェブサイト上で情報収集、関係団体が発行する資料収集に取り組んだ。

ウェブサイト

掲載コンテンツ	
基礎情報	東北 ESD センター概要、連絡先
地域 ESD 活動推進拠点	登録制度の案内
お知らせ	催事情報、ESD に関するニュース
レポート	実施事業、催事協力等のレポート
サイト利用案内	禁止事項、著作権について等利用案内

※メールマガジン、機関誌は EPO 東北事業報告 (P30) を参照

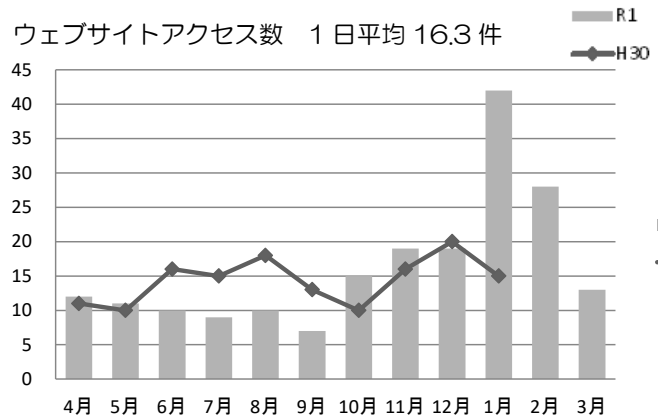
●事業総括

【成果】

・これまで情報発信の媒体はウェブサイトでのみ行ってきたが、EPO 東北の発信媒体を活用して東北 ESD センターの情報も掲載する運用へと変更した。東北 ESD センターとしては新たにメールマガジンおよび機関誌を発信媒体として整えることができた。

●情報発信

東北 ESD センターと EPO 東北の情報発信は別々に行ってきたが、これを見直してリーフレット、メールマガジン、機関誌の 3 つの発信媒体において一本化を図り、発信内容の整理を行った。



【課題】

- ・情報収集および発信のあり方については企画運営委員会でもさまざまな提案・指摘が出されており、継続して充実化に向けた改善が求められる。
- ・情報量や質の向上にあたっては事務局内の体制および発信媒体の運営の見直しが課題となる。

3) 東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の運営等 (仕様書番号Ⅳ - 2.- (3))

●名簿 (敬称略、順不動)

	氏名	所属・役職
議長	見上一幸	公益社団法人仙台ユネスコ協会 会長 宮城教育大学 名誉教授
	浅野亮	気仙沼市立鹿折小学校 校長
委員	市瀬智紀	宮城教育大学 教員キャリア研究機構 機構長 教授、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長
	齋藤修一	只見町教育委員会 前教育長
	渋谷晃太郎	岩手県立大学 総合政策学部環境政策講座 教授
	福岡真理子	一般社団法人あきた地球環境会議 事務局長、地域 ESD 活動推進拠点
	稲村伸	宮城県環境生活部 環境政策課 課長
	戸田新	岩手県環境生活部 環境生活企画室 企画課長



第2回委員会 (9/9)

●開催

第1回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第1回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R1.6.3 (火)
会場	EPO 東北 (宮城県仙台市)
参加者	27 名 (委員 5 名、代理出席 1 名)
内容	(1) 会議主旨説明 (2) EPO 東北 運営第4期までの総括 (3) EPO 東北事業検討委員会 ※オブザーバー出席 ①議長選出 ②令和元年度事業計画 ③意見交換 (4) 東北 ESD センター企画運営委員会 ①議長選出 ②令和元年度事業計画 ③意見交換
第2回 EPO 東北事業検討委員会 並びに第2回東北 ESD センター企画運営委員会	
開催日	R1.9.9 (月)
会場	仙台第二合同庁舎 2階共用会議室 (宮城県仙台市)
参加者	25 名 (委員 6 名、代理出席 1 名)
内容	(1) EPO 東北事業検討委員会 ①事業の方向性について意見交換 ②企画について意見交換 (2) 東北 ESD センター企画運営委員会 ①企画について意見交換 (3) 全体意見交換

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

4) 全国センター開催業務への出席及び対応（仕様書番号Ⅳ -2.-（４））

ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

■第１回

開催日	R1.5.16（木）
会場	GEOC セミナースペース（東京都）
内容	（１）報告事項 ・各 ESD 活動支援センター活動状況及び今年度事業計画 （２）意見交換 ・全国センターからの情報提供のあり方 ・ESD 国内実施計画「レビュー」対応及び GAP 後継枠組みへの対応に向けて ・地域 ESD 拠点に関する方針について ・全国規模の協力組織・団体、ネットワーク関係に関する方針について ・全国フォーラムについて

■第２回

開催日	R1.10.17（木）
会場	GEOC セミナースペース（東京都）
内容	（１）報告事項 ・各 ESD 活動支援センター活動状況 （２）意見交換 ・2020 年度以降の ESD 推進について ・全国フォーラムについて

■第３回

開催日	R2.1.15（水）
会場	GEOC セミナースペース（東京都）
内容	（１）情報共有 ・ESD for 2030 をめぐる国際動向と ESD 国内実施計画レビューの進捗状況 ・地域学習推進に関する文部科学省施策 （２）意見交換 ・ESD 推進ネットワークの現状と課題について



第２回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会（10/17）

5) ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（５））

① ESD 推進ネットワーク全国フォーラムへの出席（仕様書番号Ⅳ -2.-（５）- ア）

催事名	ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019 SDGs を地域で達成していくための人づくり： ESD for 2030 を見据えて
開催日	R1.12.20（金）～21（土）
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟国際会議室、他
主催	ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省
内容	≪ 1 日目 ≫ ■セッション 1 ESD の国際動向・国内動向 ■セッション 2 パネルディスカッション SDGs を地域で達成していくための人づくり とそのためのネットワークのさらなる展開 ■セッション 3 グループディスカッション 地域で ESD を広め、深めるための課題と工夫 ≪ 2 日目 ≫ ■セッション 4 分科会 分科会 1) 新しい学習指導要領と ESD 実践 分科会 2) 企業がめざす地域における SDGs 人づくり 分科会 3) ユースと共に進める マルチステークホルダーの連携 分科会 4) 体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成 分科会 5) AI 等の技術革新と教育・ 人材育成について考える ■セッション 5 全体総括



ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019（12/20）



ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019 分科会（12/21）

②東北 ESD / SDGs フォーラムの開催（仕様書番号Ⅳ-2-（5）-イ）

●事業背景

持続可能な社会の実現に向けて、ESD に関わるマルチステークホルダーが地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して ESD を推進することを目的として、ESD 活動支援センターでは「ESD 推進ネットワーク」の構築を目指している。

東北地域でも SDGs の認知が広がり始め、学校教育の中で SDGs をテーマに取り上げる事例も出てきている。一方で十分に認知が広がっておらず事例が少ないことから、SDGs 達成に向けた取組事例や関連する情報が求められている状況にある。

ESD をより一層推進することが SDGs の達成に直接・間接につながるものと捉え、多様なステークホルダーが一堂に集い、相互交流と学び合いを通して地域ネットワークの形成を構築する機会としてフォーラムを開催した。

●課題

- SDGs を具体的にどう取り入れて良いかわからないという声が多く、参考となる事例が求められている。
- 東北地方 ESD 活動支援センターとして、東北の関係者が一堂に会し情報の交流を行う場づくりのあり方が課題となっている。

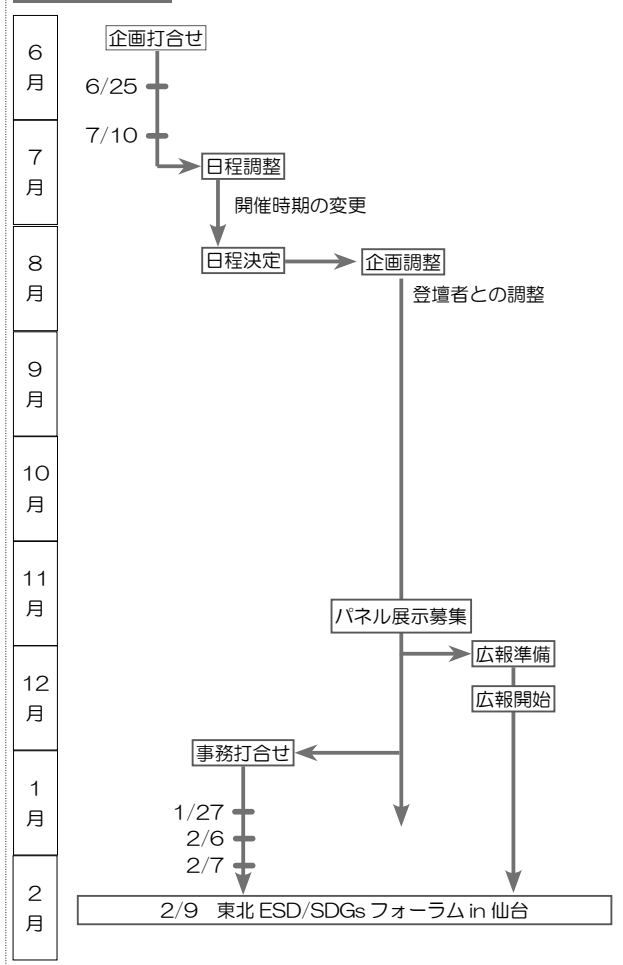
●企画趣旨

- ESD 活動に取り組む関係者間が相互交流を行う場を設け、東北における ESD プラットフォームの形成に努める。
- SDGs の目標達成に向けた取組の重要性を再確認し、地域における取組の意義と可能性について考える機会とする。
- 多様な主体の参加を呼びかけ、ESD 活動の活性化と底上げを目指す。

●東北 ESD センターのアプローチ

- ESD/SDGs に関心のある幅広いステークホルダーの参加を得るため、同日に ESD ネットワーク会議を開催し、東北各県からの参加を促した。
- 事例紹介では東北 6 県から、企業、NPO、学校での取り組み等、さまざまな分野における事例を取り上げることとした。

事業プロセス



東北 ESD / SDGs フォーラム in 仙台 開催



神田外語大学言語メディア教育研究センター准教授 石井雅章氏の基調講演

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

5) ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（5））

②東北 ESD/SDGs フォーラムの開催（仕様書番号Ⅳ -2.-（5）-イ）

開催概要

催事名	東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台 ～東北の未来をつくる SDGs ～	
開催日	R2.2.9（日）	
会場	仙台国際センター 会議棟 3F 中会議室「白樺（しらかし）」（宮城県仙台市）	
主催	環境省東北地方環境事務所、東北地方 ESD 活動支援センター	
共催	ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	
後援	河北新報社、産経新聞社東北総局、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局、TBC 東北放送、ミヤギテレビ、仙台放送、KHB 東日本放送	
参加	147 名	
内容	基調講演	「SDGs を自分ごと化するための視点」 神田外語大学言語メディア教育研究センター准教授 石井雅章氏
	話題提供	「岩手県内の SDGs の動向」 NPO 法人環境パートナーシップいわて 事業部長 櫻井則彰氏
	事例紹介	【青森県】 青森大学附属総合研究所 SDGs 研究センター 佐々木豊志氏 【岩手県】 NPO 法人のんのりのだ物語 下向理奈氏 【宮城県】 東北大学公共政策大学院公共政策ワークショップ 渡邊ゆり子氏、小川智仁氏、土居暉一郎氏 【秋田県】 秋田県立秋田北鷹高等学校 柴田創一郎氏 【山形県】 鶴岡市・食文化創造都市推進協議会 鈴木泰行氏（鶴岡市企画部 食文化創造都市推進課 食文化創造都市推進専門員） 【福島県】 NPO 法人しんせい 富永美保氏
	クロージング	ファシリテーター 宮城教育大学 教員キャリア研究機構 機構長・教授、 ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員長 市瀬智紀氏
	参加者の声	・SDGs について、基調講演で改めてお話を聞くことができ良かったです。SDGs の視点をどうやって使うか、今後留意したいと思います。事例も色々聞くことができ、今後のプロジェクトに生かせるのではと思いました。 ・学校内での導入がかなり進んでいることに驚きました。NPO や福祉の分野の方の事例紹介もとても参考になりました。企業も今後自分達で何をできるか考えていく必要があると感じました。 ・SDGs や ESD についてこれだけ盛り上がっていることを実感できた。また、取組も様々あることを見て聞いて知ることができたことは自分にとって大きな成果である。青森でも SDGs ・ESD を熱く語れるようになりたいと感じました。 ・SDGs の活動をあてはめるのではなく自分たちが今行っている SDGs の取組が何に貢献しているかを考えてみることから始めたい。 ・まずはアジェンダを読んで理解を深めます。 ・中学校での取り扱い方を考えてみたいと強く感じました。様々な実践を参考にしたいと思います。 ・SDGs を地域、学校でどのように進めるか、異業種、東北各地の取組から多くの知恵をいただいた。 ・SDGs の言葉しか知らなかったのが、大変勉強になりました。また、何から学べばいいか入口を見せていただきました。



基調講演 会場の様子



事例紹介：東北大学公共政策大学院公共政策ワークショップ

パネル展示出展者一覧

1	学校	青森県立八戸北高等学校
2		秋田県秋田北鷹高等学校
3		宮城県富谷高等学校
4		宮城県仙台第三高等学校
5		山形県立加茂水産高等学校
6	大学	尚絅学院大学
7		東北大学公共政策大学院 SDGs プロジェクト
8	企業	株式会社サイコー
9		リコージャパン株式会社
10	行政	鶴岡市・食文化創造都市推進協議会
11	NPO 等	NPO 法人環境パートナーシップいわて
12		環境系学生団体 海辺のたからもの
13		一般社団法人 SDGs とうほく
14	ユネスコ	会津ユネスコ協会
15	協会	公益社団法人仙台ユネスコ協会
16	中間支援	東北地方 ESD 活動支援センター



パネル展示



名刺交換、交流の時間



クロージングセッションでの意見交換



クロージングセッションでの意見交換

●事業総括

【成果】

- ・定員を120名としたが、SDGsへの関心の高まりから定員を上回る147名の参加があった。また、企業、行政、学校関係者、学生、市民など幅広い層の参加を得ることができた。
- ・フォーラムの企画段階から東北大学公共政策大学院SDGsプロジェクトの学生に関わってもらい、当日は事例発表者としての登壇および運営のお手伝いをいただくことができた。
- ・基調講演ではSDGsの基礎知識から導入に向けたとらえ方をお話しいただき、「SDGsによつてよく理解できた」という声が多く寄せられた。また、話題提供および事例紹介は取組内容が具体的で、より深い学びにつながることができたと好評を得た。

【課題】

- ・年内の開催を計画していたが、ステークホルダーが多いため日程調整が難航し、2月の開催となった。関係者の提案により企画内容の追加調整もあり、参加者からは開催時間が長く疲れたとの声が寄せられた。交流の時間を間に設けるなど構成に工夫が求められる。
- ・アンケートからは参加者の多くがSDGsのとらえ方を悩んでいたことが伺えた。次年度は各地域で具体的な取組を進めるフェーズへと移行することが想定され、東北ESDセンターとしてもニーズに合った情報の収集と発信および支援が課題となる。
- ・他県で開催するにあたっては、開催地域にとってその後の活動が活性化されるなど、フォーラム開催後の未来を想定した仕掛けづくりが課題となる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

5) ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（５））

③地域 ESD 拠点の登録及び支援（仕様書番号Ⅳ -2.-（５）- ウ）

●地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）について

ESD 推進ネットワーク※の趣旨に賛同して ESD 推進ネットワーク推進に向けた中核的な役割を果たす組織・団体を登録して公開する仕組み。

※ ESD 推進ネットワーク：ESD の広がりや深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、持続可能な社会づくりを目指す SDGs 達成に向けた意識、行動変革を進めることを目指している。

【構成】 ESD 活動支援センター
地方 ESD 活動支援センター（８カ所）
地域 ESD 拠点

地域 ESD 拠点は、地方センターのパートナーとして、他の地域 ESD 拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれる ESD をさまざまな形で支援することで、「ESD 推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たすことが期待されている。

●東北 ESD センターのアプローチ

- ・地域 ESD 拠点との連携のあり方を模索した。事業の共催等を行った他、青森では協働で ESD 推進・地域研究会を開催した。
- ・拠点間の間をつなぎ、青森県環境パートナーシップセンターが只見町教育委員会の取組を視察するコーディネートを行った。
- ・ESD ネットワーク会議を開催し情報交換の場を設けたが、今後は拠点同士の情報共有や学びあいの場の創出が課題となる。

●【全国】登録団体 109 件（R1.12.25 現在）

●【東北】登録団体 11 団体（R2.2.15 現在）

NO.	県	団体名
1	青森	NPO 法人 青森県環境パートナーシップセンター
2	岩手	NPO 法人環境パートナーシップいわて
3	宮城	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
4	宮城	公益社団法人仙台ユネスコ協会
5	宮城	気仙沼 ESD / RCE 推進委員会
6	秋田	一般社団法人 あきた地球環境会議
7	山形	NPO 法人環境ネットやまがた
8	福島	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
9	福島	福島工業高等専門学校
10	福島	只見町教育委員会
11	福島	会津ユネスコ協会



気仙沼 ESD / RCE 円卓会議 2019（11/1）



仙台ユネスコ 世界平和と防災プロジェクト（11/8～13）

●事業総括

【成果】

- ・東北 ESD センターと地域 ESD 拠点が連携して地域の ESD を推進するモデルとなる取組を創出できた。
- ・県境を越えて地域 ESD 拠点をつなぐ支援を行うことができた。これにより各地域のキーパーソンのモチベーションが向上し、活動の活性化に資することができた。

【課題】

- ・地域 ESD 拠点について今後増やしていく方向を目指すのか、各拠点の質の向上を目指すのか、関係者とともに議論が必要となる。
- ・東北 ESD センターと地域 ESD 拠点の連携のあり方や、東北地域のける各拠点同士の情報共有など、制度を活用した仕組みづくりが課題となる。

④ ESD ネットワーク会議（仕様書番号Ⅳ-2-（5）-エ）

●事業背景

東北では、ESD に関する既存のネットワークとして『ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム』が活動に取り組んでいる。宮城教育大学が中心となり、サテライトとして地域ごとの連携をつなぎ、活動の支援を行ってきた。東北地方 ESD 活動支援センターはこの活動を尊重し、活動の継続と発展を支援することが求められる。また、多様なステークホルダーによる連携をつなぐことが期待されており、新たな分野との交流・連携が求められている。

[ESD ネットワーク会議の構成]

- ・東北地方 ESD 活動支援センター企画運営委員
- ・EPO 東北パートナーシップ団体
- ・ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム運営委員

開催概要

催事名	ESD ネットワーク会議	
開催日	R2.2.9（日）	
会場	仙台国際センター 会議棟 3F 中会議室「白樺」（宮城県仙台市）	
参加者	46 名	
主催	EPO 東北、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム	
内容	話題提供	「「地域循環共生圏」について」 東北地方環境事務所 環境対策課 廃棄物対策等調査官 谷津正吉氏 「小学校における SDGs を導入したカリキュラムについて」 気仙沼市立鹿折小学校 校長 浅野亮氏
	意見交換	【コーディネーター】 宮城教育大学 名誉教授 小金澤孝昭氏

●課題

- ・東北 ESD センター設立以降、各関係団体と少しずつ事業協力や連携を進めてきたが、東北 ESD センターと ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアムの関係者が一堂に会する機会がなく、ネットワークが点の状態である。
- ・東北地方における ESD 活動について、関係者間で情報を共有する機会が少ない。

●プロジェクト概要

- ・東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台と同日に開催し、各県からの参加を促し、ネットワーク会議とフォーラムの2つの機会を相互交流の場として活用する。
- ・環境行政や学校教育における新たな動きについて話題を提供し、多様なステークホルダーによる情報交換の場を醸成する。



地域循環共生圏について話題提供



意見交換

●事業総括

【成果】

- ・東北 ESD / SDGs フォーラム in 仙台と同日開催としたことで多くの参加が得られた。
- ・意見交換ではコーディネーターの采配により、ESD 推進に取り組む各地域の団体から活動を紹介いただき、学校現場や教育委員会、NPO の取組について情報を共有する機会となった。

【課題】

- ・フォーラムと同日開催のため会議時間が短く、参加者同士の意見交流には至らなかった。関係者が一堂に会する機会をどのように活用していくのか、場づくりが次年度以降の課題となる。
- ・フォーラムと同時並行で準備・運営を行うため、事務局内の体制や役割分担で改善が求められる。

Ⅲ -4. 事業実施報告（２）東北地方 ESD 活動支援センター業務

５）ESD に関するネットワークの構築（仕様書番号Ⅳ -2.-（５））

⑤ ESD 推進・地域研修会（仕様書番号Ⅳ -2.-（５） - オ）

●事業背景

東北では ESD に関する認知が広がっていないものの、ESD に該当する活動を行っている団体が多数存在する。地方 ESD 活動支援センターの役割として、地域の活動に目を向け、ESD 活動の促進と活性化を図る支援が期待されている。

●課題

- ・平成 30 年度は東北地方においても地域 ESD 活動推進拠点（以下、地域 ESD 拠点）への登録団体が増えたが、地域 ESD 拠点と東北 ESD センターの連携のあり方が課題となっている。
- ・青森県では ESD の認知が広まらず、ユネスコスクールの登録校は 1 校に留まっている。
- ・次年度より教育指導要領に ESD/SDGs が反映されることから、その対応について対策が必要である。

●プロジェクト概要

- ・東北地方 ESD 活動支援センターと ESD 地域拠点の協働のもとで、地域の ESD 活動を推進するための研修会を企画する。
- ・ESD/SDGs について学んでもらうための講演、学校での実践事例紹介を行った上で、後半には今後の取組につて具体的に議論を深めるワークショップを行い、実践に向けて参加者が具体的なイメージを持ち帰る勉強会を開催する。

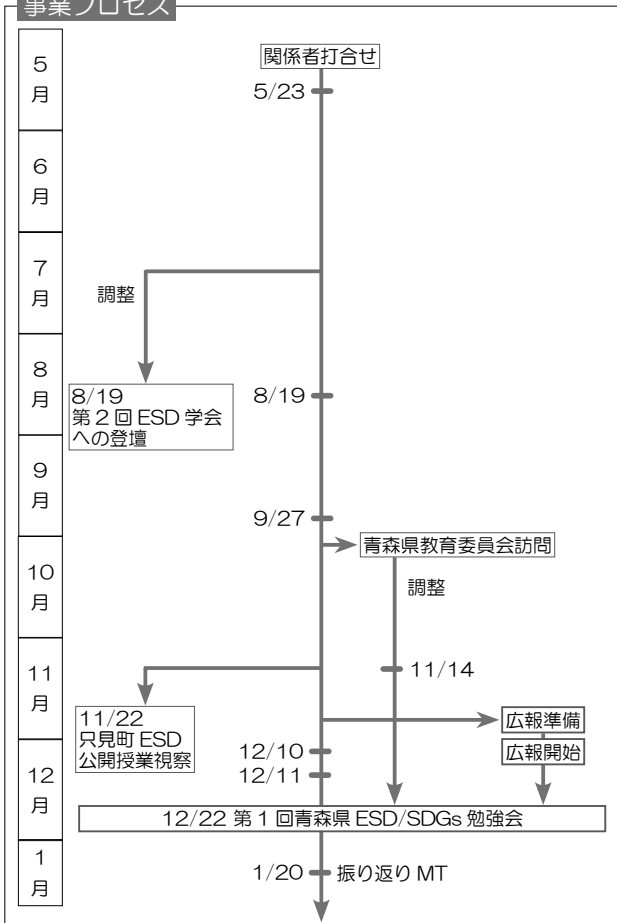
●EPO 東北のアプローチ

- ・企画にあたっては青森県の地域 ESD 拠点を中心にプロジェクトチームを立ち上げ、SDGs 研究センターを擁する青森大学、ESD に関心の高い弘前大学の巻き込みを図った。
- ・勉強会の対象を学校教員とし、青森県教育委員会の協力を仰いだ。
- ・「点」として存在する地域の活動をつなげ、東北の取組の盛り上がりに関係者間が共有することでさらに機運を高めるため、県境を越えた連携を図った。地域拠点であり ESD 先進地である気仙沼および只見町の関係者と連携し、青森県のプロジェクトメンバーの只見町視察を企画した。

プロジェクト構成団体

NPO 法人青森県環境パートナーシップセンター
青森大学 SDGs 研究センター
弘前大学
青森県地球温暖化防止活動推進員
青森市立浦町小学校 校長
東北地方 ESD 活動支援センター

事業プロセス



関係者打合せ（5/23）



只見町 ESD（海洋教育）公開授業研究会（11/22）

開催概要

催事名	第 1 回青森県 ESD/SDGs 勉強会	
開催日	R1.12.22（日）	
会場	アウガ 5 階 男女共同参画プラザ「カダール」研修室 （青森県青森市）	
参加者	21 名	
主催	青森県環境パートナーシップセンター、 東北地方 ESD 活動支援センター	
共催	日本 ESD 学会	
協力	青森大学、弘前大学	
後援	青森県教育委員会、青森県	
内容	講演	SDGs 時代の学び： 国際的な潮流とどう向き合うか 青森大学 社会学部教授 藤公晴氏
	活動発表	持続可能な社会を切り拓く児童を育む学校経営 ～ ESDGs を念頭においたホールスクール アプローチの一試み～ 気仙沼市立鹿折小学校 校長 浅野亮氏 今後の教育における ESD への期待 只見町教育委員会 前教育長、 只見町ブナセンター センター長 齋藤修一氏
	ワークショップ	ワークショップ 「SDGs が学校でどう活かせるのか。 地域課題から考える」 【ファシリテーター】 一般社団法人コ・クリエーションデザイン 平田裕之氏 【講評】 仙台ユネスコ協会 会長、日本 ESD 学会 理事 見上一幸氏



青森大学社会学部教授 藤公晴氏の講演



気仙沼市立鹿折小学校校長 浅野亮氏の活動発表



只見町教育委員会前教育長 齋藤修一氏の活動発表



第 1 回青森県 ESD/SDGs 勉強会 開会



ワークショップ

●事業総括

【成果】

- ・青森県内のメンバーによるプロジェクトメンバーであったことから、地元のつながりの中で協力体制が生まれ、主体性が高まった。
- ・青森県教育委員会から積極的な協力が得られた。県内の小中学校への広報の他、勉強会に担当者の参加もあり、今後の協力についても前向きな発言をいただいた。
- ・東北の地域 ESD 拠点が連携するモデルが創出できた。互いに協力し学び合う土壌を醸成し、東北地域の一体感を高めることができた。

【課題】

- ・第 2 回の開催に向けて、青森県内での実践事例の掘り起こしが必要である。
- ・青森県内の小中学校への広報を行ったが、青森市からの参加者が中心となったため、他地域からの参加を促す工夫が必要である。
- ・教員を対象とした勉強会の開催にあたり、学校行事に配慮した開催日程が望ましい。

Ⅲ -4. 事業実施報告（2）東北地方 ESD 活動支援センター業務

6) その他（仕様書番号Ⅳ -2.- (6)）

東北地方 ESD 活動支援センター、ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム、東北地方環境事務所による関係者打合せを定期的に開催した。

回	開催日	会場	内容
第 1 回	5/29 (水)	宮城教育大学 5 号館 3F 教室	①事業内容および予定の共有 ・ ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム ・ 東北地方 ESD 活動支援センター ②その他情報共有および意見交換
第 2 回	8/2 (金)	EPO 東北	
第 3 回	9/25 (水)	宮城教育大学 5 号館 3F 国際理解演習室	
第 4 回	12/25 (水)	EPO 東北	① ESD ネットワーク会議について ②東北 ESD/SDGs フォーラム in 仙台について ③事業内容および予定の共有 ・ ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム ・ 東北地方 ESD 活動支援センター
第 5 回	3/4 (水)	宮城教育大学	①共催事業の振り返り ・ ESD ネットワーク会議 ・ 東北 ESD / SDGs フォーラム in 仙台 ②次年度に向けた意見交換

Ⅲ -4. 事業実施報告（3）東北地方環境事務所との協働による事業実施

（仕様書番号Ⅴ）

事業運営会議

●構成団体

東北地方環境事務所
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
EPO 東北

●開催

開催日	第 1 回	H31.4.22 (月)
	第 2 回	R1.7.25 (木)
	第 3 回	R1.9.3 (火)
	第 4 回	R1.11.11 (月)
	第 5 回	R2.1.14 (火)
場所	EPO 東北（宮城県仙台市）	
内容	① EPO 東北事業の進捗確認 ②意見交換	



事業運営会議（4/22）

Ⅲ -4. 事業実施報告（４）企業等との協働事業

（仕様書番号Ⅶ）

1) 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金との事業連携

①地球環境基金主催 EPO 連絡会議

開催日	R1.8.1（木）
会場	独立行政法人環境再生保全機構 （神奈川県川崎市）
内容	①地球環境基金 中期計画の共有 ②本年度事業の内容および実施スケジュールの共有 ③意見交換



2020 年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）（10/5）

② 2020 年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）

開催日	R1.10.5（土）
会場	仙都会館 5F A 会議室 （宮城県仙台市）
参加者	14 名
主催	独立行政法人環境再生保全機構
企画運営	EPO 東北
内容	① SDGs 活用セミナー ② 2020 年度地球環境基金助成金説明会



2020 年度地球環境基金助成金説明会（東北地区）（10/5）

③全国ユース環境ネットワーク

●地方セミナー

催事名	全国ユース環境ネットワーク 東北地区高校生 SDGs セミナー
開催日	R1.8.6（火）
会場	TKP ガーデンシティ仙台ホール 30A（宮城県仙台市）
参加	12 校（各県 2 校×東北 6 県）
主催	独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金 全国ユース環境ネットワーク事務局
共催	環境甲子園（NPO 法人環境会議所東北）
協力	EPO 東北、ESD 活動支援センター
内容	基調講演 「南三陸町における新しい社会システムづくりへの挑戦」 アミタ株式会社南三陸 BIO 所長 藤田和平氏 ワークショップ 【ファシリテーター】 NPO 法人環境会議所東北 主任研究員、 NPO 法人水守の郷七ヶ宿 理事長 海藤節生



東北地区高校生 SDGs セミナー（8/6）

●地方大会

催事名	第5回全国ユース環境活動発表大会 東北大会
開催日	R1.11.17（日）
会場	TKP ガーデンシティ仙台ホール 13B（宮城県仙台市）
参加	12 校
主催	全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
備考	審査員による選考を経て 2 校が全国大会へ出場

●全国大会

催事名	第5回全国ユース環境活動発表大会
開催日	R2.2.8（土）～9（日）
会場	八重洲ファーストフィナンシャルビル ベルサール八重洲3階（東京都）
出場校	16 校
主催	全国ユース環境活動発表大会 実行委員会 （環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所）
後援	読売新聞東京本社
協力	環境省地方環境パートナーシップオフィス 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC） ESD 活動支援センター
協賛	キリンホールディングス株式会社 協栄産業株式会社 SG ホールディングス株式会社 株式会社タニタ

2) GreenGift 地球元気プログラム

●事業概要

東京海上日動火災保険株式会社では、契約時に「契約のしおり（約款）」等をホームページでの閲覧をお客様に選択していただくことで紙資源の使用量削減に取り組み、削減額の一部で環境保護活動のサポートを実施している。

東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店が、地域の環境に関する親子対象の体験活動プログラム「Green Gift 地球元気プログラム」と提供している。本事業は10月から翌年9月までを年度の区切りとし、実施地域は東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店からの応募により、本店によって決定される。

2013年から取り組まれているプログラムは2019年9月で第3期が終了し、2019年10月から第4期の取り組みが始まっている。

各団体の役割

主催／各地域の環境 NPO
共催／日本 NPO センター
協力／各地方 EPO
協賛／東京海上日動火災保険株式会社
後援／環境省

○第4期プログラムミーティング

開催日	R1.7.31（水）
会場	TKP スター貸会議室 田町三田ロカンファレンスルーム B1A （東京都）
内容	・第4期プログラム実施に向けて EPO の関わり方等についての意見交換

○年間振り返り全国会議

開催日	R1.10.21（月）
会場	東京海上日動火災保険株式会社 本館 1 階マリニャラリー（東京都）
内容	（1）趣旨説明 （2）GreenGift 地球元気プログラム 3 年間全体の成果について （3）ワークショップ ①プログラム 3 年目を 3 大ニュースで振り返る ② GreenGift Cup 2019

○第4期（2019-2022）キックオフ会議

開催日	R1.10.21（月）
会場	東京海上日動火災保険株式会社 本館 1 階マリニャラリー（東京都）
内容	（1）趣旨説明 （2）GreenGift 地球元気プログラム 第4期実施 NPO・EPO 自己紹介 （3）年間スケジュール・事業評価の説明

EPO の役割

① 実施団体候補の選定における情報提供と調整

東京海上日動火災保険株式会社の各地域部店が連携・協働する実施団体の選定をするにあたり、各地域部店から要望等をヒアリング後、候補となり得る環境 NPO 等を選出し、情報提供を行った。

② 環境 NPO と東京海上日動火災保険株式会社各地域部店の調整

各地域部店が実施団体の選定後、環境 NPO 等に事業の趣旨説明や参画依頼を行った。その後、環境 NPO と各地域部店が事業趣旨や実施の流れについて確認する顔合わせの場を調整した。

③ 企画・広報・実施のサポート

企画に際し、関係者の意見を反映できるよう促した。また、EPO 東北のウェブサイトやメールマガジンにて広報の協力を行った。当日は各地域部店の社員が参加するよう促し、運営スタッフとしてサポートを行った。



年間振り返り全国会議（10/21）

● 2018 年度（2018 年 10 月～ 2019 年 9 月）

実施都道府県①青森県

実施団体：小川原湖自然楽校

汽水湖である小川原湖をフィールドとし、山－川－湖－海のつながりを、小川原湖や小川原湖周辺に住む生き物や水草などの観察やカヌー体験を通じて学び、小川原湖が置かれている環境問題について考えるプログラムを実施した。

みんなのあおぞら水族館プロジェクト		
第 1 回	タイトル	田んぼの用水路で水生生物を探してみよう
	開催日	R1.6.30（日）
	場所	青森県上北郡東北町地内・土場川流域 圃場用水路・あおぞら水族館 （青森県上北郡東北町）
	参加者	親子 11 名
第 2 回	タイトル	小川原湖から太平洋まで高瀬川を カヌーで下ってみよう
	開催日	R1.7.7（日）
	場所	青森県上北郡高瀬川流域・小川原湖～ 高瀬川河口（青森県上北郡東北町）
	参加者	親子 15 名
第 3 回	タイトル	小川原湖で鋤簾によるシジミ取りをし て、水草の観察をしてみよう
	開催日	R1.8.31（土）
	場所	青森県上北郡高瀬川流域・小川原湖 （青森県上北郡東北町）
	参加者	親子 6 名



みんなのあおぞら水族館プロジェクト（8/31）

感想 （抜粋）	・絶滅危惧種が近くにたくさんいてすごいなと思いました。 ・力をつけてカヌーを漕げるようにしたい。 ・ゴミが一つしかなかったことに驚きました。 ・水草にもたくさんの種類があることを知りました。 ・シジミ取りは初めての体験であり、道具も初めて使用し楽しかったです。
------------	--

実施都道府県②岩手県

実施団体：マイムマイム奥州

地域循環型農業の「循環の輪」を体験しようをテーマに、ひまわりの苗植え、ひまわりの収穫、ひまわりの種の油絞り体験、循環型農業の中で生まれた卵を使用したマヨネーズ作りやご飯と卵かけご飯の試食を行い、触って・見て・味わうプログラムを実施した。

ひまわりから油をとるプロジェクト		
第 1 回	タイトル	ひまわりの苗植え&かかし作り&ひまわり油でマヨネーズを作ってみよう！ ～まっちゃん卵のゆで卵と旬の野菜のミニ試食会～
	開催日	R1.5.11（土）
	会場	胆沢トレーニング農場 セミナーハウス（岩手県奥州市）
	参加者	親子 37 名
第 2 回	タイトル	ひまわりの観察会&ひまわりの種から油をしばってみよう！ ～まっちゃん卵の目玉焼きと旬の野菜の鉄器焼きミニ試食会～
	開催日	R1.7.27（土）
	会場	胆沢トレーニング農場 セミナーハウス（岩手県奥州市）
	参加者	親子 22 名



ひまわりから油をとるプロジェクト（7/27）

感想 （抜粋）	・ひまわりのことを沢山知ることができました。 ・ひまわりから油とれて、そのカスをにわとりがとじゅんかんすることがすごいと思った。 ・油しぼり器を買って家でもやりたい。 ・おにぎりといまわりの種がおいしかった。 ・使われていない畑をひまわりを植えることで畑が再生され、景観も良いので、とっても良い活動だと思いました。
------------	---

Ⅲ -4. 事業実施報告（４）企業等との協働事業

（仕様書番号Ⅶ）

2) GreenGift 地球元気プログラム

● 2018 年度（2018 年 10 月～2019 年 9 月）

実施都道府県③秋田県

実施団体：一般社団法人あきた地球環境会議

にかほ市で元滝伏流水自然観察や地元で育てられた苔を使った苔玉づくり体験、地元で生産されたそばをいただき、鳥海山から恩恵を受ける豊かできれいなにかほ市の水資源について学ぶプログラムを実施した。

第 1 回	タイトル	こんな自然があったんだ！ にかほの魅力を再発見！ ～元滝伏流水自然観察と苔玉づくり体験～
	開催日	H30.7.20（土）
	会場	元滝伏流水、上郷生活改善センター （秋田県にかほ市）
	参加者	親子 32 名
第 2 回	タイトル	こんな自然があったんだ！ にかほの魅力を再発見！ ～元滝伏流水自然観察と苔玉づくり体験～
	開催日	H30.8.3（土）
	会場	元滝伏流水、上郷生活改善センター （秋田県にかほ市）
	参加者	親子 30 名



こんな自然があったんだ！にかほの魅力を再発見！（7/20）

感想
（抜粋）

- ・水が冷たくて気持ち良かった。また行きたいと思った。
- ・県内にもとってもキレイな水が流れているのを知りました。実際に見て水を汚さないように環境を大切にしていきたいです。
- ・鳥海山の自然が美しかった。おそばも食べれて大満足です。
- ・作ったこけ玉を大切に育てていきたいです。自然を大切にし、残していきたいです。
- ・苔のことは今まで気にとめることはなかったけれど、じっくり観察してみたいです。

● 第 4 期（2019 年 10 月～2022 年 9 月）

2019 年 10 月から 3 年間取り組まれる第 4 期は、青森県、岩手県、山形県で実施されることとなった。

連携・協働する実施団体の選定に当たり、開催県の部店担当者から、要望等をヒアリング後候補となり得る環境 NPO 等を選出し、情報提供を行い実施団体が決定した。

実施団体

青森県	小川原湖自然楽校
岩手県	一般社団法人いわて流域ネットワーク
山形県	やまがたヤマネ研究会

○北海道・東北ブロック会議

※延期

開催日	R2.3.12（木）～13（金）
場所	鳶沼、十和田湖周辺（青森県十和田市） 小川原湖自然楽校（青森県上北郡東北町）
内容	①プログラム体験、フィールドワーク スノーシューウォーキング ②意見交換会 ・活動紹介、実施プログラム紹介 ・プログラム実施についての意見交換

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催を延期

3) サバ州地球温暖化防止センター SDGs 達成へ寄与！ “気候変動×スクールマニフェスト”で未来を描く Project

●事業概要

マレーシアは、2020 年までに GDP 当たりの CO₂ 排出量を対 2005 年比で 40%削減すると表明している。一般社団法人あきた地球環境会議では平成 28 年度より、マレーシアにおける地球温暖化防止活動推進センター機能（以下「サバ州センター」という）の設置、温暖化防止の重要性の認知向上とセンター機能に資する人材育成、機能拡充に関する基盤整備を実施し、マレーシアでの温室効果ガス排出削減目標達成への貢献を目指している。

●事業内容

気候変動に関する啓発をサバ州環境局を中心に進めていくために、日本の気候変動に関する啓発方法や地球温暖化防止活動推進センターの制度等の共有などを進めている。今年度は「サバ州地球温暖化防止センター SDGs 達成へ寄与！ “気候変動×スクールマニフェスト”で未来を描く Project」をコタキナバル市内の全高校で進めるべく各種取り組みを進めた。

①マレーシア渡航

本年度は、新たに CEEA とサバ州環境局とで締結される協定書の内容について、2 回の委員会を通じて議論を行った。またコタキナバル市内の高校 3 校で、秋田県で行われている気候変動に関するプログラムを実施した。

サバ州環境局職員向けに研修を実施し、EPO 東北は日本各地で行われている SDGs の取り組みや動向について話題提供を行った。

開催日	R1.9.16（月・祝）～23（月・祝）
実施場所	マレーシア・コタキナバル市
活動内容	第 1 回委員会 気候変動環境学習プログラム 3 校実施 サバ州環境局職員向け研修（SDGs）

②日本国内研修

サバ州環境局、林業局、観光文化環境省、青年スポーツ省、青年会議所が来日し、秋田・岩手・東京で研修等を行った。

また委員会が開催され協定書の内容や来期渡航のスケジュールについて意見交換が行われた。

開催日	R2.2.13（木）～20（木）
実施場所	秋田県、岩手県、東京都
活動内容	第 2 回委員会 秋田市長表敬訪問 あきたエネルギーパーク視察 岩手県地球温暖化センター視察及び活動紹介 全国低炭素杯参加

プラットフォーム構成団体

【マレーシア】

サバ州環境保護局
サバ州林業局熱帯雨林教育センター
サバ州観光文化環境省
サバ州青年スポーツ省
サバ州青年会議所

【日本】

一般社団法人 あきた地球環境会議
地球力・ミッシヨナリー@ Akita
EPO 東北



第 1 回委員会（9/18）



秋田市長表敬訪問（2/14）



エネルギーパーク視察（2/14）

東北環境パートナーシップオフィス 運営第5期 平成31年度事業実施報告書（令和元年度／2019年度）
発行：

■東北環境パートナーシップオフィス（EPO 東北）
TEL：022-290-7179 FAX：022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp
URL：https://www.epo-tohoku.jp

■東北地方 ESD 活動支援センター
TEL：022-393-9615 FAX：022-290-7181
E-mail：info@tohoku-esdcenter.jp
URL：https://tohoku.esdcenter.jp/

office：〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎 1F
OPEN 9：30－18：00（月～金）



EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office Tohoku



東北地方
ESD活動支援センター
Tohoku Regional ESD Activity Support Center



◇運営団体◇公益財団みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）
office：〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5F
TEL：022-276-5118 FAX：022-219-5713
E-mail：melon@miyagi.jp
URL：https://www.melon.or.jp/index.html